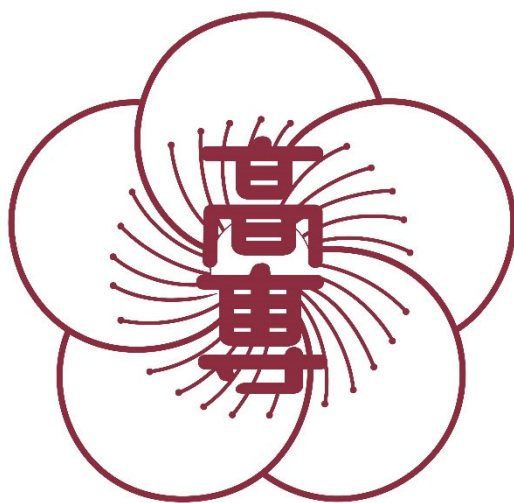


令和元年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 学生の受入（入学試験委員会） | 1 |
| 2. 教育内容等（教務委員会） | 10 |
| 3. 教育内容等（専攻科委員会） | 16 |
| 4. 学生支援（学生委員会） | 20 |
| 5. 寮生支援（寮務委員会） | 26 |
| 6. 広報活動（広報委員会） | 29 |
| 7. 学生健康支援（学生健康センター） | 33 |
| 8. 図書館運営（学術総合情報センター） | 36 |
| 9. 情報化推進（学術総合情報センター） | 43 |
| 10. 国際化推進（グローバル教育センター） | 46 |
| 11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター） | 55 |
| 12. 地域連携・研究活動 | |
| （副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター） | 57 |
| 13. 教育組織（教員任用審査会） | 68 |
| 14. 教育支援組織（事務部） | 71 |
| 15. 教育支援組織（技術教育支援センター） | 73 |
| 16. 予算及び施設・整備（総務委員会） | 78 |
| 17. 安全衛生管理（安全衛生委員会） | 80 |
| 18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会） | 83 |

1. 学生の受入（入学試験委員会）

（1）取組実績

①入試広報活動

1) 令和元年度地区別学校説明会の実施

| 実施地区 | 日 時 | 場 所 | 参加人数 |
|----------|----------------------|------------|------|
| つくば地区 | 7月20日（土） 9:30～11:30 | つくば国際会議場 | 81人 |
| 常陸大宮地区 | 7月20日（土） 9:30～11:30 | 常陸大宮文化センター | 23人 |
| 鹿嶋地区 | 7月21日（日） 9:30～11:30 | 鹿嶋勤労文化会館 | 37人 |
| 本校会場 | 7月21日（日） 9:30～11:30 | 本校大教室 | 398人 |
| 日立地区 | 8月 3日（土） 10:30～12:30 | 日立シビックセンター | 106人 |
| 土浦地区 | 8月 3日（土） 9:30～11:30 | 土浦市総合福祉会館 | 69人 |
| 取手地区 | 8月 4日（日） 9:30～11:30 | 取手市立福祉会館 | 43人 |
| 笠間地区 | 8月 4日（日） 9:30～11:30 | 笠間市立笠間公民館 | 43人 |
| 本校一日体験入学 | 9月21日（土） 9:30～15:00 | 本校第1体育館 | 890人 |

計 1,690 人

* 学校概要、卒業生の進路状況、入試制度及び募集要項等について説明を行った。

* 女子志願者を確保するため、つくば会場では、本校専攻科修了生のOG講話を行い、本校会場では、専攻科女子学生2人による学校紹介を行った。

* 参加者は、説明会全体で1,690人となり前年度より224人増加した。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会の実施

| 回 | 日 時 | 場 所 | 参加人数 | 合計 |
|-----|----------------------|--------|------|-----|
| 第1回 | 7月26日（金） 14:00～16:00 | 本校大会議室 | 30人 | 64人 |
| 第2回 | 8月19日（月） 14:00～16:00 | 本校大会議室 | 34人 | |

* 開催案内通知は、茨城県内中学校（222校）に送付し、出欠の回答を依頼した。

* 学校概要、卒業生の進路状況、令和2年度入学者募集要項及び出願手続等について説明を行った。

3) 中学校主催学校説明会

県内中学校からの依頼により担当者を派遣し、高校進路説明会等において本校の説明を行い、ひたちなか市内の中学校では模擬授業も行った。また、志願者の多い近隣中学校では、3学年担任会でも説明を行った。

令和元年度は7月～11月までに30件の依頼があり、中学生：1,551人、保護者：1,025人、教師：133人の参加があった。

4) 中学校訪問

9月2日(月)～9月20日(金)の期間に全教員が分担して県内中学校を訪問し、学校概要、教育の特徴、卒業生の進路状況、令和2年度入学者募集及び出願手続等について説明を行い、また、中学校の現状について情報収集し、相互理解の向上に努めた。

実施前の8月26日(月)13:00～中学校訪問説明会を大会議室で実施した。

令和元年度は、中学校主催学校説明会参加校、中学校教員対象説明会出席校及び県西地区中学校の一部を除く100校を訪問した。

5) 一日体験入学・学校説明会

9月21日(土)9:30～15:00(受付9:00～) *参加者数890人

*学校説明会 9:30～10:50 第1体育館

| 模擬授業 (10:50～13:45 4回) | 模擬実験 (10:50～14:20 5回) |
|---|--|
| 機械・制御系 ①機械とは何か? ②機械の3要素:設計、製造、解析 ③ロボットとセンサ ④身近なロボットと人工知能 | 機械・制御系 ①うごきをコントロールしてみよう ②レゴロボプログラミング ③C言語によるマイコンロボ制御 |
| 電気・電子系 ①クリーンエネルギーの秘密 ②10万ボルトの秘密 | 電気・電子系 ①10万ボルトにタッチ! ②電気自動車に乗ろう ③電気と磁気と光で遊ぶ |
| 情報系 ①「情報化」社会へGo! ②C言語でプログラミング | 情報系 ①2進数で計算してみよう (デジタル回路の基礎) ②コンピュータグラフィックスを体験しよう |
| 化学・生物・環境系 ①バイオ早わかり講座 ～これであなともバイオものしり博士～ ②地球環境と高専と魚? | 化学・生物・環境系 ①化学の力でコルクロケットを飛ばそう! ②世界を変えた新素材ナイロンを作ろう! ③ミステリーツアー&化学サイエンスショー |

*その他イベント

校内見学ツアー(4回)、学寮案内(3回)、入試制度の説明(3回)、進路相談、学生Café(学生会企画)、クラブ活動紹介、ロボコン出場マシンの公開テストラン

*グラウンドを臨時駐車場として使用し、臨時警備員3人により校内通行車両の誘導を行い、参加者の安全確保に努めた。

6) 学校見学希望者への対応

中学生及び保護者からの個別依頼に対応し、校内施設見学案内、学校概要説明、進路相談及び受験案内等を行った。

令和元年度は、10月～12月に中学校8校から生徒・保護者等35人の見学者があった。

7)入試広報資料の作成

| 種 類 | 名 称 | 部数 | 備考 |
|--------|--------------------|---------|----------|
| パンフレット | 学校案内「What's 茨城高専?」 | 7,500部 | ホームページ公開 |
| リーフレット | 学校説明会（地区説明会） | 30,000枚 | ホームページ公開 |
| リーフレット | 一日体験入学&学校説明会 | 28,000枚 | ホームページ公開 |
| ポスター | 一日体験入学&学校説明会 | 250枚 | |
| パンフレット | 学校説明会資料 | 5,000部 | ホームページ公開 |
| リーフレット | 受験のしおり | 5,000枚 | ホームページ公開 |
| リーフレット | 茨城高専の学寮案内 | 5,000枚 | |

*入試広報資料は、入試広報活動全般において中学生、保護者、中学校教員及び学習塾関係者等へ配布した。

*学校説明会案内リーフレットは、茨城県内中学校：222校（3年生の生徒数+学校5枚の約27,000枚）、栃木・千葉県内中学校：98校（各校10枚の約1,000枚）、県内外学習塾：849校（各2枚の約2,000枚）に送付した。

*一日体験入学&学校説明会案内リーフレット及びポスターは、茨城県内中学校：222校に送付した。

8)募集要項の作成

- ・令和2年度本科入学者募集要項 … 2,900部印刷、県内中学校へは中学校訪問で持参又は送付、県外中学校及び学習塾等へは送付
- ・令和2年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・令和2年度第4学年編入学者募集要項 … 350部印刷、高等学校へ送付
- ・令和3年度専攻科入学者募集要項 … 350部印刷、全国高専へ送付

②入学試験委員会の開催

1)第1回

日時：令和元年5月16日（木）16：10～16：45（場所：中会議室）

議題：1. 令和2年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について

2. 専攻科学生選抜基準の改正について

3. 令和2年度第4学年編入学試験業務日程（案）について

4. 令和2年度第4学年編入学生募集要項（案）について

5. 令和2年度第3学年編入学試験（外国人対象）日程について

6. 令和2年度外国人留学生受入可能数について

7. 平成31年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について

8. 令和2年度入学者選抜試験日程（案）について
9. その他

2)第2回

日時：令和元年6月18日（火）16：10～16：38（場所：中会議室）

- 議題：1. 2020年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について
2. 令和2年度入学者募集要項（案）について
 3. 第4学年編入学試験における英語の外部試験導入について
 4. その他

3)第3回

日時：令和元年9月13日（金）11：00～11：33（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和2年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について
2. タイ政府奨学金留学生・2020年度入学者選抜に係る合否判定について
 3. その他

4)第4回

日時：令和元年10月23日（水）16：35～17：10（場所：中会議室）

- 議題：1. 令和2年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について
2. 令和2年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について
 3. 令和2年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜試験業務日程表（案）について
 4. その他

5)第5回

日時：令和2年1月14日（火）16：10～17：07（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度入学者選抜試験日程について
2. 令和3年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程表について
 3. 令和3年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程表について
 4. 令和2年度入学者推薦選抜試験の実施について
 5. その他

6)第6回

日時：令和2年1月23日（木）11：00～11：31（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和2年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 令和2年度第3学年編入学試験（外国人対象）に係る合否判定について

3. 他高専から本校への編入学希望者に対する審査取扱いに関する申合せの一部改正及び他高専から本校への編入学希望者に係る合否判定について
4. その他

7)第7回

日時：令和2年2月5日（水）16：10～16：45（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和3年度専攻科学生募集要項（案）について
2. 令和2年度入学者選抜学力検査及び外国人特別選抜試験の実施について
 3. 再入学に関する申合せの一部改正について
 4. その他

8)第8回

日時：令和2年2月20日（水）11：00～12：13（場所：大会議室）

- 議題：1. 令和2年度入学者選抜試験合格者の判定について
2. その他

③入学試験の実施

1)令和2年度本科入学者選抜試験

- ・推薦選抜願書受付：令和2年1月7日（火）～1月9日（木）
- ・推薦選抜適性検査、面接試験：令和2年1月21日（火）[予備日22日（水）]
- ・推薦選抜合格内定者発表：令和2年1月27日（月）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜、外国人特別選抜
願書受付：令和2年1月28日（火）～1月31日（金）
- ・推薦選抜合格内定者入学確約書提出期限：令和2年2月10日（月）
- ・入学者選抜学力検査、外国人特別選抜：令和2年2月16日（日）本校・土浦検査場
（帰国子女特別選抜は、出願者なし。）
- ・合格者発表：令和2年2月21日（金）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・学力選抜合格者入学確約書提出期限：令和2年2月28日（金）
- ・入学手続説明会：令和2年3月4日（水）10：00～12：00 本校第I教室棟
（新型コロナウイルス感染防止のため、第1体育館での説明会を取り止め、分散受付で入学手続関係書類の配付、教材購入、体操服注文、入寮希望者面接を行った。）

○ 令和2年度本科入学試験状況

| 学科 | 入試全体 | | | | | 推薦選抜 | | | 学力選抜 | | |
|---------|------|-------------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| | 募集人員 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 出願倍率 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
| 国際創造工学科 | 200 | 394 (74) | 390 (72) | 204 (42) | 2.0 | 133 (41) | 133 (41) | 51 (13) | 342 (61) | 338 (59) | 153 (29) |

※下段（ ）は女子で内数

| 学科 | 帰国子女特別選抜 | | | 外国人特別選抜 | | | 入学者数 | タイ留学生入学者数 | 入学者数合計 |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-------------|-----------|-------------|
| | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | | | |
| 国際創造工学科 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 202 (42) | 2 (0) | 204 (33) |

※下段（ ）は女子で内数

2) 令和2年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

| 志望系 | 人数(国籍) | 本校志望順位 | 合格者数 | 入学者数 |
|-----|------------|---------|---------|------|
| 情報系 | 2（韓国、ベトナム） | 第4・第5志望 | 1（第5志望） | 0 |

*本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定

3) 令和2年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：令和元年8月19日（月）～8月21日（水）
- ・編入学試験：令和元年9月9日（月）
- ・合格者発表：令和元年9月17日（火）13：00 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・入学確約書提出期限：令和元年11月29日（金）
- ・確約書提出者に対する説明会：令和元年12月10日（火）15：30～
- ・入学手続説明会：令和2年3月5日（木）9：00～ 図書館棟スタディールーム

○ 令和2年度第4学年編入学試験状況

| 募集主専攻系 | 出願者数（高校：科） | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|-----------|------------|------|------|------|
| 機械・制御系 | 3（普通3） | 3 | 1 | 1 |
| 電気・電子系 | 1（電気） | 1 | 1 | 1 |
| 情報系 | 3（普通1、情報2） | 3 | 2 | 2 |
| 化学・生物・環境系 | 1（普通） | 1 | 1 | 1 |

4) 令和2年度専攻科入学者選抜試験

- ・推薦選抜願書受付：令和元年5月7日（火）～5月8日（水）
- ・推薦選抜面接試験：令和元年5月15日（水） *本校以外からの受験者なし
（本校からの受験者については各学科からの推薦に基づき総合的に合否判定）
- ・推薦選抜合格者発表：令和元年5月21日（火）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・推薦選抜合格者入学確約書提出期限：令和元年6月7日（金）17時
- ・学力選抜、社会人特別選抜願書受付：令和元年5月29日（水）～5月31日（金）
- ・入学者選抜学力検査：令和元年6月15日（土） 数学、専門科目
（社会人特別選抜は、出願者なし。）
- ・合格者発表：令和元年6月21日（金）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・学力選抜合格者入学確約書提出期限：令和元年10月31日（水）

○ 令和2年度専攻科入学試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

| 推薦選抜 | | 学力選抜 | | | 入学者数 |
|---|------|------|------|------|------|
| 出願者数 | 合格者数 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | |
| 機械システム工学科(0) 電子制御工学科(4) 電気電子システム工学科(5) 電子情報工学科(1) 物質工学科(4) 計 14人 | 14 | 38 | 36 | 21 | 26 |

④外国人留学生の受入

| 学年 | 学科（系） | 性 | 国籍 | 身分 | 備考 |
|----|------------------------|---|-------|------|-------------------|
| 1年 | 国際創造工学科 （電気・電子系） | 男 | タイ | 政府派遣 | 第3期タイ政府奨学金留学生受入事業 |
| | 国際創造工学科 （情報系） | 男 | タイ | 政府派遣 | |
| 3年 | 国際創造工学科 （機械・制御系） | 男 | マレーシア | 政府派遣 | |
| | 国際創造工学科 （情報系） | 男 | モンゴル | 政府派遣 | |
| | 国際創造工学科 （化学・生物・環境系） | 男 | タイ | 国費 | |

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 今年度の第4学年編入学試験を台風の影響のため午後から試験を開始したことから、令和2年度入学者推薦選抜試験の実施において試験日の翌日に予備日を設定し、出願者に事前に周知した。次年度からは年間行事予定表や募集要項に予備日を記載する。

- ② 第4学年編入学試験における英語の外部試験導入について、普通高校は外部試験を積極的に受験しており、工業高校も英検等を受けるよう指導していることから、令和3年度編入学試験からしばらく併用した後、将来的には英語試験なしで外部試験のみに移行していく。
- ③ 第4学年編入学試験における数学の試験時間を90分から60分に変更することについて、数学科で検討したところ、60分に変更しても判定に影響はないとのことから、令和3年度編入学試験から実施することとした。
- ④ 国際創造工学科の1学科に改組して4年目の入試となったが、過去3年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計（600点満点）の最高点、最低点及び平均点は次のとおりであり、問題の難易度と入試倍率が影響していると思われる。

| | 最高点 | 最低点 | 平均点 | 志願倍率 |
|--------|-----|-----|-----|------|
| 平成30年度 | 514 | 354 | 407 | 1.6 |
| 平成31年度 | 513 | 350 | 408 | 1.8 |
| 令和2年度 | 536 | 380 | 428 | 2.0 |
| 3年間の平均 | 521 | 361 | 414 | 1.8 |

- ⑤ 地区別学校説明会については、大人数収容会場や駐車場確保の課題から、平成30年度から本校を会場に実施した結果、昨年の245人を153人上回る398人の参加者となり、大教室の他に視聴覚教室と大会議室を説明会場に使用し、巡回方式で説明を行った。なお、地区別学校説明会全体では、800人の参加者となり前年度より202人増加した。
- ⑥ 今後の入学試験委員会における課題
- * 帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜について、①通常学力の合格者最低ラインの学力検査の点数であるにも関わらず、特例適用の優先権を取得できることの妥当性。②面接試験の必要性。③現在は入学定員の枠外での判定を行っているが、この妥当性。
 - * 今年度の入試では、調査書に発達特性のことが記載されていたり、欠席日数が非常に多いなど、例年にない傾向がみられた。調査書提出段階でのこうした情報についても、今後の調査書判定での議論に入れるべきかどうかについて。
 - * 次年度の第1学年入学生から、特に数学について補習など手厚く支援を行いたい、こうした取組みを各教科でも行うべきかについて。

(3) 今後の展開

- ① アドミッション・ポリシーの入学者選抜における具現化に関して、新たな評価方法の導入の検討が必要である。
- ② 入試倍率の低下を防ぐため、本校ホームページでの情報発信を始め、これまで以上に入試広報活動の取組が必要である。

- ③ 推薦選抜試験の適正検査で著しく点数が低い受験生に係る募集人員と合否判定の関係等について、今後の検討課題とした。また、過去の志願状況（系別）をホームページに掲載することとした。

2. 教育内容等（教務委員会）

（1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①国立高専第2ブロック内での連携

9月10日、11日に長岡高専で実施された第2ブロックの教務主事会議において、教育課程の編成等に関して情報交換を行った。

②キャリア教育

KOSEN4.0 イニシアティブで昨年度採択されたグローバルエンジニアを育成するための取り組みの一環として、国際創造工学基礎（1年）にキャリア教育を導入した。また、共有ドライブを活用して、就職情報を学生へ情報共有している。さらに、就職支援に関し、同窓会との情報交換を進めている。

③ボランティア活動の支援

ボランティア活動については「社会貢献」として単位化しており、12人の学生が「社会貢献」の単位を取得した。

④モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

課題解決型授業（PBL）で先行している長岡高専の実情を調査・見学し、本校での導入への検討のための調査を行った。また、CBTを12月に実施した。さらに、9月19日に1年生に対して、学習状況の調査を行った。

⑤インターンシップへの参加推進

インターンシップの校内説明会を4月に実施した。今年度、165人がインターンシップに参加した。また、報告会を実施して、その事例を在校生にも周知した。

⑥セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑦Webによる履修登録

選択科目の履修申請をマークシート方式からWeb登録方式へ変更し、登録作業の効率化を図った。

⑧主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科2期生の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下

のとおり配属された。

- <主専攻> 機械・制御系 78名
電気・電子系 39名
情報系 39名
化学・生物・環境系 40名
- <副専攻> 機械・制御系 46名
電気・電子系 46名
情報系 46名
化学・生物・環境系 30名
グローバル系 28名

⑨規則等に関すること

高等専門学校設置基準の一部改正への対応や実態に合った内容に修正するため、以下の規則の立案及び申合せの改正を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校学則の一部改正案
- ・ 茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正案
- ・ 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正案
- ・ 社会貢献活動の単位認定に関する申合せの改正

⑩令和元年度教務委員会

令和元年度は以下のとおり委員会を5回、メール審議を25回開催した。

| 回数 | 開催日(期日) | 議題 |
|------------|------------|--|
| メール 第1回 | 平成31年4月22日 | 1. 転学について |
| メール 第2回 | 平成31年4月22日 | 1. 平成26年度以降入学生に係る教育課程の入学者で、平成29年度以降の教育課程授業科目を履修した場合の単位振替について |
| 第1回 | 令和元年5月16日 | 1. アドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかの分析 2. ディプロマポリシーに照らして、学習教育の成果が認められるかの分析 3. 4年編入学試験における英語の外部試験導入について 4. 新課程と旧課程の科目対応表(M科)の変更について 5. グローバル(特別)研修の単位認定について 6. 社会貢献時間数認定および単位認定について |

| | | |
|-------------|------------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 7. 知識技能審査単位認定について 8. メーリングアドレスについて 9. 他大学等履修申請（茨城大学・前学期）について 10. 令和元年（平成31年）度版教務関連申合せについて 11. 令和元年度の特別活動計画について 12. その他 |
| メール 第3回 | 令和元年6月10日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 転学について |
| 第2回 | 令和元年6月13日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 4年編入学試験における英語の外部試験導入について 2. グローバル（特別）研修の単位認定について 3. 知識技能審査単位認定について 4. 一日体験入学関係 5. CBTについて 6. その他 |
| メール 第4回 | 令和元年6月26日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の保健室受講について |
| メール 第5回 | 令和元年7月11日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 茨城大学集中講義の履修について |
| メール 第6回 | 令和元年8月2日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 退学について 2. 知識技能審査による単位認定について |
| メール 第7回 | 令和元年8月21日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献活動実施届（事前）について |
| メール 第8回 | 令和年8月29日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. グローバル研修事前申請について |
| メール 第9回 | 令和元年9月4日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 長岡技術科学大学eラーニング（2学期）の履修について 2. 休学について 3. 研究生の退学について |
| メール 第10回 | 令和元年9月13日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 知識技能審査による単位認定について 2. 他大学等での履修科目の単位認定について |
| メール 第11回 | 令和元年10月28日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 休学許可の取り消しについて |
| メール 第12回 | 令和元年11月6日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 休学について |
| メール 第13回 | 令和元年11月6日 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 退学について |

| | | |
|-------------|------------|--|
| メール 第14回 | 令和元年11月11日 | 1. 休学について |
| 第3回 | 令和元年11月20日 | 1. 他大学等の単位認定について 2. グローバル（特別）研修の単位認定について 3. 実践英語の単位認定について 4. 知識・技能審査による単位認定について 5. 社会貢献活動事前申請について 6. 社会貢献活動時間数認定について 7. 社会貢献活動単位数認定について 8. 転学について 9. 特別欠席の入力について 10. 長期休業中の単位取得と特別欠席の扱い 11. 留学生用科目について 12. 時間割作成について 13. Web シラバス作成作業予定 14. 一般科目と専門学科との懇談会の実施について |
| メール 第15回 | 令和元年12月10日 | 1. 休学について 2. 退学について |
| メール 第16回 | 令和元年12月13日 | 1. 社会貢献活動実施届（事前）について |
| メール 第17回 | 令和元年12月30日 | 1. 知識・技能審査による単位振替科目の変更について |
| メール 第18回 | 令和2年1月10日 | 1. 転学について 2. 社会貢献活動実施届（事前）について |
| メール 第19回 | 令和2年1月28日 | 1. 知識技能審査による単位認定について |
| 第4回 | 令和2年2月12日 | 1. 学則の改正について 2. 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす 単位の認定に関する規則の改正について 3. 社会貢献活動の単位認定に関する申合せの改正について 4. 退学について 5. インターンシップ単位認定について 6. 実践英語単位認定について 7. 知識・技能審査単位認定について |

| | | |
|-------------|-----------|---|
| | | 8. グローバル（特別）研修事前申請について 9. 社会貢献活動事前申請について 10. 社会貢献活動時間数認定について 11. 令和2年度の中学校訪問について 12. 専攻科学生選抜基準の改正について 13. 時間割作成について 14. 行事予定表1次案について 15. 実験スキルシートについて 16. Web シラバスについて |
| メール 第20回 | 令和2年2月19日 | 1. 茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正について |
| メール 第21回 | 令和2年2月20日 | 1. 他大学等での履修科目の単位認定について 2. 社会貢献活動実施届（事前）について |
| メール 第22回 | 令和2年3月3日 | 1. 社会貢献活動実施届（事前）について 2. グローバル研修事前申請について |
| メール 第23回 | 令和2年3月6日 | 1. インターンシップの単位認定について 2. 社会貢献活動実施届（事前）について 3. 社会貢献活動時間数認定について 4. 社会貢献活動単位認定について |
| メール 第24回 | 令和2年3月17日 | 1. インターンシップの単位認定について 2. 社会貢献活動実施届（事前）について 3. 社会貢献活動時間数認定について 4. 社会貢献活動単位認定について |
| 第5回 | 令和2年3月18日 | 1. 再評価試験結果について 2. 社会貢献活動時間数認定について 3. 社会貢献活動単位認定について 4. 知識・技能審査による単位認定について 5. 知識・技能審査による単位振替科目の変更について 6. 卒業追加認定について 7. 休学について 8. 退学について 9. 復学について 10. 研究生について 11. 実験スキルシートについて 12. 行事予定表2次案について |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------------|
| | | 1 3. 授業時間割 2 次案について |
| メール 第 25 回 | 令和 2 年 3 月 27 日 | 1. 休学について 2. 退学について |

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習（PBL）の導入を検討するため、課題解決型授業（PBL）で先行している長岡高専の実情を調査・見学し、本校での導入への検討のための調査を行った。また、COC+全国シンポジウムにて、「地元企業との連携による、教育・キャリア支援の仕組み」の講演により情報を収集する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、シンポジウムが中止となり情報を得ることができなかった。今後も情報を収集し、検討を進めていく。
- ② 作業効率化のため、選択科目の履修申請をマークシート方式から Web 登録方式へ変更したが、これにより新型コロナウイルス感染拡大防止のための登校禁止期間にも柔軟に対応することができた。
- ③ 主専攻・副専攻配属については、希望の系が分散したことにより、ほとんどの学生が第 1 希望の系に配属となった。

(3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で高専学生情報統合システムの導入が進められており、一部の高専ではすでに導入されているが、混合学級への対応や出席管理システム、証明書発行システムとの連携ができていない状況であり、本校における導入時期については、慎重に検討する必要がある。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策として、「新しい生活様式」に対応した授業運営を検討する必要がある。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

（1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

①専攻科入学者の確保

本科の学生が専攻科にも魅力を感じて選択してくれるように、学協会で受賞した専攻科学生の記事を本校専攻科 HP へ記載した。また、これまで専攻科棟のロビーのチャンピオンボードへ記載されていただけであった専攻科長賞の受賞者の紹介も専攻科 HP へ記載した。さらに、学生の活躍紹介として、留学をして海外の大学で頑張っている 2 人の専攻科学生に留学体験記を寄稿してもらい掲載した。

②カリキュラムの改定

平成 29 年度に改組が行われた本科生が専攻科へ入学するのに合わせて行うカリキュラムの改定は、予定どおり専攻科カリキュラム改定に向け順調に準備が進んでいる。まず、学位申請時に必要となる科目表について、すでに改組が終わっている本科科目の、専門科目、関連科目、専攻科科目等の科目区分を整理した。それを踏まえ、専攻科の全コース共通科目の改正案を作成した。現在は、各コースでの開講科目について、コース毎に改正案を検討している段階である。また、カリキュラム改正の議論をしやすくするために、各コースの担当教員の割り振りを行い全教員へ周知した。

③産業界との連携

地域社会を学舎として教育に取り組む活動は長岡高専の JSC00P が有名であり高く評価されている。そこで、JSC00P の成果報告会へ出席し情報収集を行った。その要点をまとめ、ひたちなか市を中心とする企業団体である NNS の運営委員会で報告し、本校でも同様の取り組みを専攻科の特別実験で令和 2 年度より試行することとなった。現在、複数の企業と具体的なテーマの策定に取り組んでいる。

④専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化

専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化には継続して取り組んでいる。また、上記③に記載のとおり特別実験への地域社会の参画について令和 2 年度の試行に向けて企業団体へ打診した。

⑤特例適用専攻科に係る変更の届出

令和 2 年度入学生から適用の電気電子工学コースの科目表の変更の届出と 4 人の指導教員の追加、4 人の変更の届出を行い、科目表の変更と指導教員 4 人の追加、3 人の変更が認

められた。

⑥特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、申請した21人全員が学位を取得した。

⑦申合せの改正

平成29年度に改組が行われた本科生の専攻科入学者選抜に対応するため、以下の申合せの改正を行った。

- ・ 専攻科学生選抜基準

⑧令和元年度専攻科委員会

令和元年度は以下のとおり委員会を6回、メール審議を3回開催した。

| 回数 | 開催日(期日) | 議題 |
|-----|------------|--|
| 第1回 | 平成31年4月25日 | 1. 専攻科教育課程表の改定について 2. コース毎の定員策定について 3. 専攻科入試の英語試験について 4. 専攻科修了要件に係わる学協会について 5. 専攻科長賞の継続の是非について 6. H31年度専攻科申合せの確認および専攻科学力選抜基準改正案の審議 7. 学生の異動について 8. インターンシップ単位認定について |
| 第2回 | 令和元年6月18日 | 1. アドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかの分析 2. ディプロマポリシーに沿った学生が卒業しているかの分析 3. 専攻科教育課程表の改定準備 4. 専攻科長賞の継続の是非について 5. 学協会発表の特例に関する申し合わせ 6. その他 |
| 第3回 | 令和元年9月25日 | 1. 専攻科教育課程表の改定準備 2. 特例適用下での学位申請提出書類「履修計画書」「成果の要旨」の共有について 3. 専攻科学生の大学院進学指導について |

| | | |
|--------------|-----------------|--|
| | | 4. 専攻科 HP を通じた情報発信について |
| 第 4 回 | 令和元年 11 月 13 日 | 1. 専攻科カリキュラム改定準備 各コース検討結果報告 2. 専攻科コースへの教員配置 (案) 3. 特別実験への NNS 参加企業の協力 (テーマ提供、評価など) について |
| 第 5 回 | 令和元年 1 月 24 日 | 1. R04 年度カリキュラムの改定について 2. 専攻科の合格基準について 3. R02 年度教員配置 4. 学生実験について 5. 特別研究、修了に関して 6. 学位に関して |
| メール 第 1 回 | 令和 2 年 1 月 31 日 | 1. インターンシップの単位認定について |
| 第 6 回 | 令和 2 年 2 月 12 日 | 1. 専攻科 2 年生単位修得認定について 2. 専攻科学生選抜基準の改正について |
| メール 第 2 回 | 令和 2 年 3 月 6 日 | 1. インターンシップの単位認定について |
| メール 第 3 回 | 令和 2 年 3 月 23 日 | 1. 退学について 2. 復学について 3. 研究生について |

(2) 自己評価 (改善含む) 及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、今年度で 2 回目の対応であり、初年度に比べ、円滑に進めることができ、申請者全員が学位を取得することができた。学生の不備修正はまだ一定数ある状況であるので、来年度は学生に対し、申請方法の周知をより徹底していく。
- ② 本科の学生が専攻科にも魅力を感じ選択してくれるように、専攻科の活動の様子をホームページで積極的に紹介するようにした。今後も、専攻科の志願者が増えるよう本科の学生に対して専攻科の魅力を周知していく。
- ③ 平成 29 年度に改組が行われた本科生が専攻科へ入学するのに合わせて行うカリキュラムの改定は、予定どおりに進み、専攻科の全コース共通科目の改正案を作成し、各コースでの開講科目について、コース毎に改正案を検討している段階である。今後は、令和 2 年度内に改訂案を策定できるように進めていく予定である。
- ④ 地域社会を学舎として教育に取り組む活動を専攻科の特別実験で令和 2 年度より試行することとなった。現在、複数の企業と具体的なテーマの策定に取り組んでいる。本校と地域社会を学舎とする新しい取り組みとして発展するよう期待している。

(3) 今後の展開

- ① 本科改組後の学生が専攻科に入学するのに合わせ、カリキュラムの改訂を行うため、特例適用専攻科における科目表の変更申請が必要だが、大幅な変更となる場合は、事前に大学改革支援・学位授与機構と申請手続について相談することとなる。そのため、令和2年度中にはカリキュラムの改訂案を完成させ、大学改革支援・学位授与機構へ相談を行う。
- ② 特別研究の充実・成果発表の英語化については、今後も、引き続き取り組んでいく。
- ③ 認定専攻科及び特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査（レビュー）が今後予定されているため、準備を進めていく。

4. 学生支援（学生委員会）

（1）取組実績

①課外活動支援

課外活動支援の取り組みについては、新入生オリエンテーション、（4月）、高専大会入賞者と校長と学生表彰者の懇談会（10月）を実施し、課外活動運営強化を支援した。

以下の部活において外部コーチを委嘱した。

- ・卓球部、弓道部、柔道部、吹奏楽部、茶道部

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

■運動部

関東信越地区高等専門学校体育大会結果

- ・卓球競技 : 男子団体 優勝
: 男子個人シングルス 2位（中村） 3位（村上）
: 男子個人ダブルス 優勝（村上・菌部） 2位（中村・照沼）
- ・テニス競技 : 男子個人シングルス 2位（遠藤）
: 男子個人ダブルス 優勝（遠藤・菊池）
: 女子個人ダブルス 優勝（金子彩・金子晴） 2位（原・篠崎）
- ・バドミントン競技 : 女子シングルス 優勝（廣原花） 3位（廣原幸）
: 女子個人ダブルス 優勝（齋藤・廣原） 3位（佐藤・松本）
- ・バレーボール競技 : 男子団体 優勝
- ・サッカー競技 : 優勝
- ・陸上競技 : 男子 400m H 優勝（渡辺）
: 男子やり投げ 2位（井沢）
: 男子 4 x 100m R 3位（澤畑、打越、井沢、渡辺）
: 女子走幅跳 3位（小山）
- ・ソフトテニス競技 : 男子ダブルス 2位（高橋・高橋） 3位（岡田・大内）
- ・硬式野球競技 : 2位
- ・剣道競技 : 男子個人 3位（吉野）
- ・柔道競技 : 男子個人 90kg級 優勝（高島）
- ・水泳競技 : 女子 100m平泳ぎ 優勝（北）
: 女子 200m個人メドレー 優勝（中里）
: 男子 200m背泳ぎ 優勝（河内）
: 女子 100mバタフライ 2位（中里）
: 女子 100m背泳ぎ 優勝（北）
: 男子 100m背泳ぎ 優勝（河内）

関東信越地区高等専門学校弓道大会

：男子個人 2位（富岡）

全国高等専門学校体育大会

- ・水泳競技：女子100m背泳ぎ 優勝（北）
：女子100m平泳ぎ 第3位（北）
- ・バレーボール競技：男子団体 準優勝
- ・卓球競技：男子団体 3位
- ・テニス競技：男子ダブルス 3位

全国通信弓道大会：男子個人 優勝（山内）

■文化部

茨城県高等学校春季将棋大会：個人戦A級第3位（山田）

Web×IoT メーカーズチャレンジ2019-20in 茨城

最優秀賞

「CPRSS（カプラス）～CPR支援システム～」(三井田および小山高専学生1名)

審査員特別賞

「スマートスピーカーを使った老人の見守りシステム」(磯崎・井上・黒沢)

THE 高専@SEMICON Japan 2019

優勝

「マグネシウム合金の3Dプリンタを用いたロストワックス遠心鋳造法」

(阿部・江守・篠原・井坂・小山・樋岡)

以下大会において主管校として大会の運営を行った。

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ・陸上競技：6月29日（土）～30日（日）@長野市営陸上競技場
- ・サッカー競技：7月6日（土）～7日（日）@ひたちなか市総合運動公園

厚生補導経費として部活動への支援を行った。

- ・複数部共同（筋トレ用の重り）
- ・剣道部（打ち込み台）
- ・サッカー部（シュート練習器具）

- ・卓球部（ボール出し器具）

理事長表彰

- ・AC2年 平尾萌（日本地球化学会学生優秀賞を受賞）

②学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

奨学金一覧（○）は受給実績あり

- ・日本学生支援機構 貸与型（○）
- ・若築建設奨学金（○）
- ・岸川光男記念奨学基金（○）
- ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
- ・古岡奨学会奨学金（○）
- ・中川育英会奨学金（○）
- ・茨城県奨学金（○）
- ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生（○）
- ・朝鮮奨学会（○）⇒新規
- ・日本学生支援機構 給付型（予約採用1名採用、令和2年度より受給開始）
- ・天野工業奨学金
- ・ウシオ財団奨学金
- ・あしなが育英会奨学金
- ・交通遺児育英会奨学金
- ・関育英奨学会
- ・川村育英会
- ・(株)フィックススターズ奨学金
- ・山新育英財団奨学金
- ・日東紡奨学金
- ・ひたちなか市奨学金
- ・水戸市奨学金
- ・日立市奨学金
- ・大洗町奨学金
- ・稲敷市奨学金

入学料免除（猶予）：2人

授業料免除前期：全額免除 14 人 半額免除 7 人

授業料免除後期：全額免除 14 人 半額免除 7 人

災害特例による授業料免除：2 人

JASSO 支援金：2 人⇒新規（台風被害に遭った学生に JASSO より 10 万円支給）

茨城工業高等専門学校修学支援事業基金

前期 1 名、 後期 4 人

日本学生支援機構奨学生

第 1 種 3 人、 第 2 種 9 人

③学生会活動

- ・令和 2 年度学生会長選出
- ・根本 直樹（機械・制御系 3 年） 会長選挙投票率 43.7%
- ・学生会と学校長との懇談会
- ・令和元年 7 月 9 日（火） 学校側：校長始め 11 人、学生会側：会長以下執行部 13 人
- ・教室エアコン温度設定の改善、合宿所やトイレの整備、冷水器増設の要望など
- ・校内レクリエーション大会、各種企画
- ・ドッジボール大会、クイズトーナメント大会、カバディ競技大会、クリスマス企画など
- ・学生会新聞の発行（1 号～4 号）
- ・新任教員へのインタビュー、高専体育大会結果速報、校内体育大会結果紹介記事など
- ・学生会交流会に執行部が参加
- ・いきいき茨城ゆめ国体の運営協力
- ・ビーチバレーボール競技 令和元年 9 月 12 日（木）～16 日（月）バレーボール部員
- ・バレーボール競技 令和元年 10 月 1 日（火）～5 日（土）バレーボール部員
- ・陸上競技（大会前のプログラム編成作業）令和元年 9 月 1 日（日）～4 日（水）陸上競技部員

④イベント

芸術鑑賞会

日時：12 月 12 日（木）

会場：ひたちなか市文化会館

内容：古典芸能「落語」

目的：学生の教養、人間性を高めるため

校内体育大会

日時：10 月 9 日（水）

全校学生による校内体育大会を実施。

⑤学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・交通安全講話（1年）（3年）
- ・非行防止講演会（1年）
- ・薬物乱用防止講演会（2年）
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）

その他、校内・校外巡回を各教員で分担して実施した。更に、青少年相談員として青少年に対する街頭での指導、勝田東海地区中・高生徒指導連絡協議会総会、ひたちなか市学校警察連絡協議会総会及び研修会等に参加するなど、外部との連携を積極的に行った。

⑥施設改修

合宿所畳の表替えを行い、衛生環境の改善を行った。

⑦預り金

関東信越地区高専体育大会サッカー競技の大会期間（6月～8月）に新規の預り金管理を行った。

⑧懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

本校学生による不適切な事案が発生したため対応した。またそれを受けて、再発防止のために全学生へ指導を行った。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 体育大会・コンテスト等での学生の活躍については、全国高専体育大会で優勝するなど好成績を収めた。連合会主催の高専ロボコンでは、8年ぶりに全国大会出場を果たした。今後も学生の安全管理に注意しながら、課外活動を通じて健康な身体と責任感や協調性等が養成されるよう取組みをサポートしていく。
- ② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。新規に1つの奨学金の利用があった。
- ③ 学生の自主性や積極性が損なわれないよう、学生会活動を指導し、サポートした。今後も引き続き学生とのコミュニケーションを密にし、より学生会活動が充実したものになるよう指導を継続する。
- ④ 芸術鑑賞会では、笑点で有名な三遊亭小遊三等による落語を鑑賞した。学生は、落語家の話芸に聞き入り、会場は笑いに溢れていた。
- ⑤ 自転車の通学マナー向上や自動車事故の防止、非行防止、薬物犯罪やサイバー犯罪の防止等の講演を行った。学生は皆講演を熱心に聞き、意識改革につながった。

- ⑥ 昨年につき、合宿所の衛生環境を改善。大広間と寝室の畳の表替えを行った。毎年少しずつ環境の改善を行っている。
- ⑦ 預かり金の取扱いを開始し、適切な会計処理と円滑な運用を進めている。本年は1つの学内団体が新たに取扱いを開始した。(大会期間終了に合わせて取扱いも終了)。今後参加団体が増加するように取り組んでいく必要がある。
- ⑧ 再発防止に向けた指導と防犯カメラの設置場所の周知を行った。

(3) 今後の展開

コロナウイルスの影響で年度末のイベントが縮小された。今後は三密を防ぎ、ソーシャルディスタンスをとる等感染防止対策を取り、学生の安全安心を保持しながら、学生生活を充実させたものにするのが課題となる。

5. 寮生支援（寮務委員会）

（1）取組実績

①寮生数について

| | | | |
|---------|-------|-----|---------------------|
| 年度当初寮生数 | 166 人 | 入居率 | 79% |
| 年度途中入寮者 | 5 人 | | |
| 年度途中退寮者 | 13 人 | | |
| 年度末寮生数 | 158 人 | 入居率 | 75%（卒寮生及び年度末退寮生を含む） |

②寄宿料免除について

台風被害により臨時入寮したものが2人おり、寄宿料免除を実施した。

③寮食堂について

老朽化している厨房機器類を随時更新した。また寮食堂の壁に断熱材を入れる工事を行い、結露によりカビが発生しないよう衛生環境を整えた。

④外出外泊システムについて

不具合が多かったシステムであるが、その都度、届出データを精査し、システム開発業者に確認するなどして安定的な運用ができるようになった。

⑤点呼システムについて

外出外泊システムと連動した点呼システムであるが、使用するノートパソコンの精度の問題や、インターネット環境の問題等により不具合が生じやすかったため、新たにパソコンを設置するなど環境整備を行った。

⑥宿直業務について

教員宿日直に関する申合せの一部改正を行い、宿直を免除する者と、申請により宿直を免除する者を明文化した。また、次年度から外部委託者の業務割振日について平日を1日増やすことを寮務委員会で決定した。

⑦避難訓練について

春には火災、秋には地震を想定した避難訓練を実施した。

⑧「レジデンシャルアシスタントに関する申合せ」の制定について

閉寮期間中に18歳未満の留学生をサポートするため、レジデンシャルアシスタントを置く制度を設けた。次年度から運用開始となる。

⑨寮務委員会

第1回 令和元年5月23日(木)

- ① 平成30年度寮費決算(案)について
- ② 令和元年度(平成31年度)寮費予算(案)について
- ③ 令和元年度学寮運営方針について(報告)

第2回 令和元年8月29日(木) メール審議

1. 学生問題行動に関する審議について

第3回 令和元年10月28日(月) メール審議

1. 学生問題行動に関する審議について

第4回 令和元年11月21日(木) メール審議

1. 災害特例による寄宿料免除について

第5回 令和元年12月25日(水)

1. 茨城工業高等専門学校寄宿舎教員宿日直に関する申合せの一部改正について
2. 宿日直業務の外部委託について
3. レジデンシャルアシスタントに関する申合せの制定について
4. 令和2年度学寮運営方針について
5. 茨城工業高等専門学校寮生心得の一部改正について

第6回 令和2年1月24日(金)

1. 茨城工業高等専門学校寄宿舎教員宿日直に関する申合せの一部改正について

⑩学寮行事

| 期日 | 内容 |
|---------------|------------------|
| 平成31年4月2日(火) | 開寮、新入寮生オリエンテーション |
| 平成31年4月4日(木) | 新入寮生歓迎会 |
| 平成31年4月17日(水) | 学寮避難訓練(火災) |
| 平成31年4月26日(金) | 簡易閉寮 |
| 令和元年5月6日(月) | 開寮 |
| 令和元年5月21日(火) | 暴風雨時点呼訓練 |
| 令和元年5月23日(木) | 寮生総会(寮生会予算・決算) |
| 令和元年6月16日(日) | 寮生保護者懇談会 |
| 令和元年7月13日(土) | 1年男子寮生部屋替え |
| 令和元年8月9日(金) | 閉寮 |
| 令和元年9月18日(水) | 開寮 |
| 令和元年9月21日(土) | 一日体験入学(学寮見学会) |
| 令和元年10月23日(水) | 学寮避難訓練(地震) |
| 令和元年10月26日(土) | 寮祭 |

| | |
|---------------------|-------------|
| 令和元年 10 月 23 日 (水) | 学寮避難訓練 (地震) |
| 令和元年 12 月 26 日 (木) | 閉寮 |
| 令和 2 年 1 月 5 日 (日) | 開寮 |
| 令和 2 年元 1 月 9 日 (木) | 学寮建物等の美化作業 |
| 令和 2 年 2 月 4 日 (火) | 卒寮生追い出し会 |
| 令和 2 年 2 月 11 日 (火) | 退寮日、部屋替え |
| 令和 2 年 2 月 12 日 (水) | 部屋替え |
| 令和 2 年 2 月 21 日 (金) | 閉寮 |
| 令和 2 年 3 月 4 日 (水) | 入寮説明会 |

⑪規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎教員宿日直に関する申合せ」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寮生心得」の一部改正について
- ・「レジデンシャルアシスタントに関する申合せ」の制定について

(2) 自己評価 (改善含む) 及び課題

- ① 次年度の入寮更新の際、従来だと 4・5 年生は指導寮生のみ更新を認めていたが、指導寮生を補助するという位置づけでも更新を認めた結果、入居率は 85%を超えることができたが指導寮生の質が下がってしまう懸念がある。指導寮生の意識向上を図る。
- ② 寮生会の活動について自主性や積極性が損なわれてきているので、まずは委員会活動を活発に行うよう教員と協力しながらサポートする必要がある。

(3) 今後の展開

国際寮新設に向けて、寮生数も増え、短期留学生の受け入れも増えることから、寮生が安全で過ごしやすい学寮の環境整備を行いつつ、学生寮の位置付けや在り方について運用方針を見直す必要がある。

6. 広報活動（広報委員会）

（1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

①ホームページの改修及び情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

ホームページの茨城高専名の英語表記を全て「National Institute of Technology (KOSEN), Ibaraki College」と修正した。また、運用が停止しているフェイスブックのリンクをトップページから削除した。

本校の各種行事や学生・教職員の活動については、随時ホームページで紹介した。

②「学校要覧」の刊行

令和元年度版「学校要覧」を組織、研究活動、学生活動、在学状況、就職・進学状況等のデータを更新し、6月に800部刊行し、12月に100部増刊した。

主に求人企業、地域連携機関及び来客者等に配布し案内を行った。その他、機構本部依頼新設タイ高専（KOSEN-KMITL）設置用に、50部を機構本部国際企画課へ送付した。

③「What's 茨城高専？」の刊行

「What's 茨城高専？」を、入試広報用として6月に刊行した。

刊行部数は7,500部で、学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

④「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者向けに刊行しており、8月と3月の2回刊行した。

⑤公開講座の開催

学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に次のとおり公開講座を開講した。昨年度から引き続き、各講座の申込方法を本校ホームページからのWeb申込とし、申込みの簡便化と受付業務の効率化を図った。

| 講座の名称 | 受講定員 | 受講者数 |
|--------------------------------------|------|------|
| 分子の世界 -分子科学入門- | 40 | 7 |
| C言語でプログラミング | 10 | 9 |
| マイコンを使った電子工作講座 | 10 | 10 |
| 考えてみよう！数学！ | 25 | 16 |
| Android ゲームプログラミング入門 | 20 | 9 |
| 高専入試問題で学ぶ英国理社4科目 | 50 | 79 |
| IoT デバイス入門講座－自分のアイデアを生かしたデバイスを作ろう！！－ | 10 | 2 |
| ネット検索を活用しよう | 10 | 2 |
| ネット検索を活用しよう (女子中学生対象) | 10 | 5 |
| 計 | 185 | 139 |

⑥おもしろ科学セミナーの開催

社会貢献の一環として、小、中学生を対象とした理工学分野のセミナー「おもしろ科学セミナー」を8月23日に開催した。今年度は午前の部、午後の部に加え、終日コースを設けた。373人の応募者の中から、277人（小学生179人、中学生98人）が受講した。

| 対象 | テーマ名 | 受講者数 |
|-----|-------------------------------|------|
| 小学生 | 手回し発電機を作ろう！めざせ10万ボルト！ | 22 |
| | 思い通りに動かそう！コンピュータ操縦カー | 48 |
| | あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究2019 | 51 |
| | 作って楽しい！見て感動！立体万華鏡 | 15 |
| | 電子工作：「メロディの小箱ミニ」をつくろう | 43 |
| 中学生 | マイコンで動く工作物を作ろう | 14 |
| | マイコンでGPSを使おう | 14 |
| | 電気信号・電波信号をキャッチ！ | 27 |
| | ARアプリケーションを作ろう！ | 20 |
| | 香りのマジック “お酢+お酒=バナナ？” | 23 |

⑦広報委員会

1)第1回

日時：平成31年4月25日（木）

- 議題： 1. 広報委員会規則について
2. 広報委員会委員について

3. 「What's 茨城高専？」(2020年度版)の編集について
4. 「令和元年度版学校要覧」の編集について
5. 「高専だより第113号」の編集について
6. 「おもしろ科学セミナー2019」について
7. 平成31年度ひたちなか市包括協定(1中コミセン「キッズ理科教室」)による理科教室について
8. 出前授業について
9. 令和元年度茨城高専が開講する公開講座について
10. ホームページの更新について
11. 「社会貢献活動の単位認定に関する申合せ」について

2)第2回

日時：令和元年5月28日(火)

- 議題：
1. 「おもしろ科学セミナー2019」について
 2. 「What's 茨城高専?2020」について
 3. 「令和元年度版学校要覧」について
 4. その他

3)第3回

日時：令和元年7月17日(水)

- 議題：
1. 「おもしろ科学セミナー2019」について
 2. ホームページの更新について
 3. その他

4)第4回

日時：令和元年12月24日(火)

- 議題：
1. 本校の広報・社会貢献活動等の分担・見直しについて
 2. 「公開講座」について
 3. 「高専だより第114号」の編集について
 4. その他

(2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 高専の海外展開という高専機構全体の動きの中で、機構本部から高専名英語表記変更の通知があり、本校も広報誌及びホームページ等の表記を速やかに反映させた。
本校教職員や学生の活動について引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「What's 茨城高専?」については、いずれも6月に刊行することができた。来年度以降も早期に刊行を行うよう進めていく。
- ② 公開講座については、新規講座が開設された結果、受講定員への充足率が75%とな

り、前年度の 95%から低下した。定員を見直した上で広報活動等を強化し充足率のアップを図っていく。また、各講座は概ね好評であり、本年度の受講者アンケートでは約 94%が「満足」した旨の回答であった。

- ③ おもしろ科学セミナーについては、申込者数は昨年度より 37 人減少した。また、受講当選通知後のキャンセルが多く、受講者数は定員より 20 人少ない人数となった。次年度は、二次抽選を設けるなどをして、受講者数が定員を満たすよう改善が必要である。今年度から設けた終日コースについて、小学生対象講座は小学生の集中力を考慮し、昼食時間以外の休憩時間を設けるなど、改善が必要である。

アンケートの結果については、受講生の 90%強が「おもしろかった」旨の回答であった。平成 30 年度から実施日を 1 日に短縮したが、アンケートの結果では 70%の受講者がセミナー時間の長さはちょうど良かった旨の回答であったため、来年度も 1 日での開催を継続する。引き続き広報活動を充実させて実施していく。

(3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。今後も紙媒体の広報誌に加えて、ホームページを活用しながら積極的に本校の情報を発信していく。また、公開講座やおもしろ科学セミナー等のイベントを本校の広報活動の機会ととらえ、企画内容の充実を図っていく。

7. 学生健康支援（学生健康センター）

（1）取組実績

学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① メンタルヘルスに関する学生への取り組みを実施した。
 - ア.1年生とカウンセラーによるグループカウンセリング
 - イ.留学生とカウンセラーによるグループカウンセリング
 - ウ.DV 予防教育セミナー（1年）
 - エ.カウンセリング講座（3年）
- ② 教職員が関連する研修会に参加し支援体制の充実を図った。
 - ア.発達障害への支援セミナー（学内）を2回開催（うち一回は自殺予防の話を織り交ぜたもの）
 - イ.障害学習支援実務者育成研修会
 - ウ.全国国立高専学生支援担当教職員研修参加（看護師のみ）
- ③ 運動部所属学生及び寮生を対象に「普通救命講習会」（AED使用方法）を実施した。
- ④ エピペン講習会を実施した。
- ⑤ 献血を実施した。
- ⑥ 学校環境衛生検査（学校飲料水水質検査、学校プール水水質検査、騒音検査、空気検査）を実施した。
- ⑦ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）によるアンケートを実施した。
- ⑧ 学生定期健康診断、（歯科検診含む）を実施した。
- ⑨ 「スポーツ傷害保険」加入者の募集を行った。
- ⑩ 「学生総合補償プラン保険」の募集を行った。
- ⑪ 「日本スポーツ振興センター」の給付金請求事務を行った。
- ⑫ 体育大会等の救護を行った。
- ⑬ 怪我や急病の応急処置、付き添い、健康相談、医療機関紹介・連絡を行った。
- ⑭ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑮ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑯ 学生健康センター内の定期打ち合わせ及び学生健康センタースタッフ会議を実施した。
- ⑰ 感染症対策として低学年教室に二酸化塩素（クロツツ空間除菌）を設置した。
- ⑱ 階段昇降機を設置した。
- ⑲ 新型コロナウイルス感染防止ポスターの作成と掲示。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① ア.学生相談室やカウンセラーについて理解を深め、親近感を持ってもらうことができた。
イ.カウンセラーと留学生が直接話すことで相互の距離が近くなった。
ウ.デートでのDVについて内容を理解して、対処方法を学ぶ良い機会となった。
エ.食と心の関連について学ぶ事ができ興味深く傾聴し効果を得られた。
- ② 発達障害支援セミナーでは自殺予防の話も織り交ぜ講義内容の深掘りを図った。その他学外での研修会、講座等に参加し今後も研鑽が必須と考える。
- ③ 救命救急で最も重要な「救命の連鎖」をスムーズに行える事こそが命を救う一歩であり、いざという時に対応できるように講習会を実施した。学生は真剣な姿勢で講習会に臨んでおり、一定の効果があつた。繰り返し学ぶ（体験する）事が大事である。
- ④ 学校薬剤師により、デモペンによる実技講習を行い、知識を深めた。
- ⑤ 献血の普及啓発や手続きの簡素化を行い、献血協力者は昨年比倍増した。
- ⑥ 学校薬剤師により実施した。基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑦ 調査結果を基に、担任のヒアリング及びカウンセラーによる個別対応を行った。また個別対応のリスト外の学生へも注意を払い教職員間の情報共有を図った。発達特性を持つ学生の支援体制を「特別支援教育室」と連携をとり進めた。
- ⑧ 健康管理を徹底し、有意義な学校生活が送れるように今後も受診率の向上に努める。
- ⑨ 安心して部活動に励めるように、加入を推奨した。
- ⑩ 安心して学校生活を送れるように、加入を推奨した。
- ⑪ 学校管理下内での怪我に対して請求を行った。情報共有し漏れが無い様に対応した。
- ⑫ サッカー競技の救護を行い、競技特性上、怪我人が多く発生したが適切に対処した。
- ⑬ 不意に起こる応急処置や急病に対し、関係者間の連絡を密に行いタルにおける体調不良の対応の充実を図る。急病や怪我の応急処置を適切に行った。
- ⑭ メンタルの問題を抱え、体調不良の訴えにより休養する学生に対して、懇切丁寧に対応し、関係の精神科医師やカウンセラーとの適切に情報共有を行った。
- ⑮ 「特別支援教育室」の体制整備について、学生相談室のカウンセラーを中心に業務補助した。
- ⑯ 合理的でより良い支援を行うために、定期的な打ち合わせの機会を持ち、課題を出し合い取り組んだ。
- ⑰ インフルエンザ等集団感染の予防対策として設置した。
- ⑱ 保健室のある2階へ座ったまま階段を昇り降りできる昇降機を導入しバリアフリー化を図った。
- ⑲ 新型コロナウイルス感染症対策として、ポスターを作成し掲示し注意喚起を行った。

(3) 今後の展開

学生健康センターとして、学生が不安なく、充実した学生生活を送れるようホームページの更新や環境の整備を行う。特に、新型コロナウイルス等感染症予防対策に注力をする。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

（1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約8万8千冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年12月からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

①行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

* 新入生対象（クラス単位で国語の授業時間を使用して説明会を実施）

日 時：平成31年4月10日（水）、12日（金）、15日（月）、18日（木）

場 所：視聴覚教室、図書館閲覧室

* 新入留学生対象

日 時：平成31年4月18日（木）

場 所：図書館閲覧室

2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：平成31年4月23日（火）～令和元年7月3日（水）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計83冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

3) 第20回図書館カフェの開催

日 時：令和元年11月20日（水）16時30分～17時30分

講 師：一般教養部 佐々木 多希子 助教

演 題：「解の公式がない方程式と数列～数学は実社会で役に立つのか？～」

広 報：ポスター掲示、図書館HPで案内、市内図書館・生涯学習センター等へ案内

参加者：19人（うち一般市民9人）

4) 第4回ビブリオバトルの開催

募集期間：令和元年9月19日（木）～11月22日（金）

応募総数：20件

投票期間：令和元年11月25日（月）～12月26日（木）

受賞者決定：令和2年1月17日（金）

表彰式：令和2年2月6日（木）12時40分～（場所：視聴覚教室）

| 表彰 | 所属 | 氏名 | 書名 | 作者 | おすすめポイント | |
|-------|----|----|-------|--------------------|----------|------------------|
| 特別大賞 | 3 | C | 後藤 拓真 | ゲート：自衛隊彼の地にて、斯く戦えり | 柳内たくみ | 元自衛官による超本格的な戦闘描写 |
| 特別優秀賞 | 3 | I | 大塙 柚葵 | 小説言の葉の庭 | 新海誠 | 二人をつなぐ雨と万葉集の和歌 |
| | 3 | I | 佐藤 季紀 | マブラヴ～ALTERNATIVE～ | 北側寒囀 | 進撃の巨人の元ネタ |
| 優秀賞 | 1 | 1 | 平塚 名 | 博士の愛した数式 | 小川洋子 | 人と人を結びつける数学の美しさ |
| | 1 | 4 | 市毛 輔 | 夢をかなえるゾウ | 水野敬也 | 偉人から学ぶ人生の変え方 |
| | 4 | C | 難波 真温 | 都会（まち）のトム&ソーヤ | はやみねかおる | 忘れられないワクワク感 |
| | 5 | E | 渡邊 果子 | 恋のゴンドラ | 東野圭吾 | ゲレンデ・マジック |

②企画展示の実施

1) 「ブックハンティング図書」の展示（経費：後援会費）

展示物：学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示（経費：後援会費）

展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2019年本屋大賞受賞作品、第161回・162回 芥川賞・直木賞作品

4) 「第4回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第4回ビブリオバトル受賞作品及び推薦図書

③図書館環境整備

1) パソコンコーナーの整備

パソコンコーナーのパソコン5台（Windows7 サポート終了）を廃棄し、Windows10 搭載パソコン2台を整備した。

（令和2年度図書館改修に伴い現在のパソコンコーナーは廃止となり、改修後は閲覧室に2台配置する。）

2) ライブラリーカレンダーの整備

月・日・曜日札を差し替えられる両側タイプのライブラリーカレンダーを新調し、よりわかりやすい表示とした。

3) 令和元年度に除籍整理した図書館資料

・製本雑誌 439 冊 ・製本以外図書 872 冊 （計 1,311 冊）

④各種図書コーナーの配置

1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。

2) 英語コーナー

英検参考書や TOEFL、IELTS の参考書を展示。

3) 新書コーナー

4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

5) 大学編入学対策コーナー

6) 進路資格コーナー

資格取得や就職活動に役立つ資料を配架。

7) F E 受験コーナー

F E 試験 (Fundamentals of Engineering Exam) 対策の参考書・問題集を配架

8) 本校教員著書コーナー

9) メンタルヘルスコーナー

10) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

11) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

12) グローバル図書コーナー

グローバル関連の図書 342 冊を配架。

13) 国連コーナー

国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

⑤令和元年度整備資料

1) ブックハンティング図書 (後援会より寄贈) 83 冊

学生図書委員を中心に各クラスで選書した本のため利用率が高い。

2) 教員推薦図書 87 冊 (うち後援会より寄贈 62 冊)

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。併せてシラバス掲載の図書 45 冊を整備した。

3) 専門書 95 冊 (後援会より寄贈)

新出題形式対応 TOEIC、シラバス掲載参考書、編入学関係等の専門書を購入した。

4) 各賞受賞作品 7 冊 (うち後援会より寄贈 3 冊)

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示した。

⑥蔵書構成等（令和元年度）

1) 図書

| 分類 | 和書 | 洋書 | 計 |
|-------|--------|--------|--------|
| 総記 | 3,604 | 276 | 3,880 |
| 哲学・宗教 | 3,943 | 899 | 4,842 |
| 歴史・地理 | 6,199 | 243 | 6,442 |
| 社会科学 | 6,287 | 313 | 6,600 |
| 自然科学 | 14,707 | 2,735 | 17,442 |
| 技術工学 | 14,126 | 1,757 | 15,883 |
| 産業 | 730 | 17 | 747 |
| 芸術 | 4,156 | 98 | 4,254 |
| 言語 | 5,572 | 3,223 | 8,795 |
| 文学 | 17,819 | 1,457 | 19,276 |
| 計 | 77,143 | 11,018 | 88,161 |

2) 電子書籍

| 和書 | 洋書 | 計 |
|----|-----|-----|
| 46 | 133 | 179 |

3) 配架雑誌・新聞

- ・国内雑誌：45誌
- ・新聞：5誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑦研究支援活動

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：14件
- ・外部図書館への貸借依頼：87件

2) 電子ジャーナル利用

| 電子ジャーナル名 | 契約形態 |
|--|-----------|
| Science Direct (Elsevier 社) | 高専コンソーシアム |
| A I P Publishing (American Institute of Physics) | 高専コンソーシアム |
| A P S Physical Review Journals (American Physical Society) | 高専コンソーシアム |
| ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science) | 高専コンソーシアム |
| Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ | 本校個別契約 |

3) 文献検索データベース利用

| データベース名 | 契約形態 |
|----------------------|-----------|
| JDreamIII (科学技術振興機構) | 高専コンソーシアム |

| | |
|--|-----------|
| MathSciNet (AMS : American Mathematical Society) | 高専コンソーシアム |
| 朝日けんさくくん (朝日新聞データベース) | 本校個別契約 |

⑧図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和元年度)

* 正規の時間内開館 : 平日の午前8時30分～午後5時

* 時間外開館 夜間開館 : 平日の午後5時～8時

* 時間外開館 土・日曜開館 : 午前10時～午後5時

1)開館状況(月別開館日数)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 正規時間 | 20 | 20 | 20 | 23 | 17 | 18 | 22 | 20 | 19 | 18 | 16 | 21 | 234 |
| 時間外(夜間) | 17 | 20 | 19 | 23 | 7 | 7 | 22 | 20 | 19 | 17 | 6 | 0 | 177 |
| 時間外(土曜日) | 4 | 3 | 4 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 2 | 0 | 33 |
| 時間外(祝・日曜日) | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 合計(正規+土・日) | 24 | 23 | 25 | 28 | 18 | 20 | 25 | 25 | 22 | 22 | 18 | 21 | 271 |

2)入館者数(入館者カウント装置から算出)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 正規時間 | 3,262 | 4,335 | 3,422 | 5,479 | 2,582 | 1,890 | |
| 時間外(夜間) | 947 | 1,951 | 1,089 | 2,405 | 395 | 365 | |
| 時間外(土曜日) | 219 | 374 | 344 | 621 | 46 | 352 | |
| 時間外(祝・日曜日) | 0 | 0 | 175 | 188 | 0 | 0 | |
| 合計 | 4,428 | 6,660 | 5,030 | 8,693 | 3,023 | 2,607 | |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 正規時間 | 3,347 | 4,298 | 2,427 | 4,817 | 1,972 | 1,782 | 39,613 |
| 時間外(夜間) | 1,509 | 1,447 | 856 | 1,546 | 151 | 0 | 12,661 |
| 時間外(土曜日) | 180 | 595 | 170 | 458 | 167 | 0 | 3,526 |
| 時間外(祝・日曜日) | 0 | 249 | 0 | 200 | 0 | 0 | 812 |
| 合計 | 5,036 | 6,589 | 3,453 | 7,021 | 2,290 | 1,782 | 56,612 |

3)一般利用者入館者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 入館者数 | 68 | 47 | 49 | 65 | 33 | 34 | 38 | 38 | 48 | 29 | 21 | 42 | 512 |

4) 利用者区分別貸出冊数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1年生 | 184 | 88 | 98 | 62 | 18 | 15 | 20 | 39 | 20 | 18 | 19 | 4 | 585 |
| 2年生 | 53 | 41 | 62 | 57 | 40 | 26 | 43 | 49 | 69 | 67 | 39 | 9 | 555 |
| 3年生 | 75 | 41 | 75 | 68 | 57 | 20 | 42 | 57 | 65 | 42 | 36 | 11 | 589 |
| 4年生 | 124 | 120 | 92 | 79 | 95 | 95 | 192 | 111 | 223 | 157 | 198 | 25 | 1,511 |
| 5年生 | 245 | 223 | 172 | 182 | 118 | 129 | 174 | 86 | 107 | 94 | 43 | 16 | 1,589 |
| 専攻科 | 38 | 50 | 43 | 39 | 19 | 32 | 56 | 55 | 39 | 25 | 25 | 13 | 434 |
| 教員 | 9 | 21 | 17 | 40 | 20 | 31 | 26 | 19 | 22 | 17 | 21 | 24 | 267 |
| 職員 | 244 | 308 | 255 | 291 | 86 | 125 | 197 | 178 | 214 | 171 | 87 | 88 | 2,244 |
| 非常教職員 | 1 | 2 | 5 | 8 | 8 | 3 | 5 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 38 |
| 一般 | 117 | 72 | 75 | 100 | 67 | 81 | 96 | 86 | 75 | 52 | 59 | 62 | 942 |
| 合計 | 1,090 | 966 | 894 | 926 | 528 | 557 | 851 | 680 | 839 | 643 | 528 | 252 | 8,754 |

⑨会議等の開催

1) 学術総合情報センター運営委員会

【第1回】令和元年5月31日（金）15：10～15：30 管理棟2階 大会議室

議題：1. 学術総合情報センター規則及び運営委員会規則について

2. 2019年度年度計画について

3. 図書館の活動計画について

4. その他

【メール審議】発議：令和元年7月8日（メール審議1）

除籍予定図書リストの各系（部）内照会

令和元年10月4日（メール審議2）

除籍予定図書リストの不用決定審議

決議：令和元年10月15日

2) 第20回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

日時：令和元年6月21日（金）

場所：小山工業高等専門学校

出席者：村上 倫子（副学術総合情報センター長）

吉田 秋子（学生課図書・情報係）

協議題：今回なし（情報交換、図書情報センター見学を実施）

研修会：国立国会図書館講師による資料保存研修

3) 令和元年度高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

日 時：令和元年8月28日（水）29日（木）

場 所：長岡技術科学大学

参加者：吉田 秋子（学生課図書・情報係）

テーマ：「高専・大学図書館が今、目指すべきものについて」

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ② 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費からどのように必要経費を捻出していくか、利用状況をどのように把握していくかなど、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図るための課題である。
- ③ 本校ホームページの図書館のページへのアクセスやページ内の情報が分かりにくいため、サイトの移動も含めて改善する必要がある。
- ④ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

(3) 今後の展開

- ① 平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習の環境整備などについて検討していく。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策のため、令和2年4月1日から図書館の一般利用者への開放を停止し、4月17日に緊急事態宣言の特定警戒都道府県として茨城県が指定され、緊急事態措置による休業要請施設となり、4月22日から臨時休館とした。
令和2年度図書館改修工事のため、引き続き令和3年3月まで臨時休館とし、改修工事に伴う図書館資料等の物品移転作業を行い、9月から10号館に臨時図書室を設けて研究支援活動や図書の一部貸出しサービス等を実施する。

9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

（1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

①サーバの更新

老朽化している学内のサーバ（ウイルス対策サーバ、外部 DNS サーバ、無線 AP 統括管理サーバ等）について、更新を実施した。

また、OS のサポートが切れる電子錠サーバ及び薬品管理サーバの更新も実施した。

②HP 及びメールサーバの更新

HP 及びメールサーバに使用していたレンタルサーバのサービス終了に伴い、新たなレンタルサーバの更新を実施した。

④ OS サポート終了に伴うパソコンの更新等

2020 年 1 月にパソコンの OS、Windows 7 のサポートが終了するため、パソコンの更新及び OS のアップデートを実施した。

④ IP 電話の導入

電話交換機に伴う更新の際に、IP 電話を導入したため、各建屋のネットワーク装置の設定変更及び IP 電話用ネットワークの整備等を行った。

⑤有線 LAN における MAC アドレス認証の導入

令和 2 年 12 月の情報セキュリティ監査で指摘のあったことと、情報セキュリティの観点から、一部の校内有線 LAN に MAC アドレス認証を試験的に導入した。

⑥ IT 資産管理の改善

IT 資産管理の徹底を図るため、全ての管理部署を対象に IT 資産の現地調査を実施し、IT 資産管理の徹底を図った。並行して、IT 資産の管理に関するフローの作成を進めた。

また、IT 資産の廃棄については、学内で資産を分解の上廃棄していたが、今年度から粉砕処理が行える専門の廃棄業者に委託し廃棄を実施した。

⑦情報セキュリティ監査の受審

国立高専機構本部の情報セキュリティ監査を、令和 2 年 12 月 5 日（木）～6 日（金）に本校において受審した。

⑧情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、学生（新入生）及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

⑨電子計算機演習室の時間外開放

電子計算機演習室を、平日 17 時～20 時まで学生が利用することを目的として、時間外開放を実施し、利用者は以下のとおりとなった。

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-------|
| 115 | 275 | 182 | 285 | 18 | 27 | 288 | 135 | 105 | 91 | 21 | 1,542 |

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 老朽化している学内のサーバを更新する際に、今後の運用を考慮し仮想マシンとして実装し、不慮のハードウェア障害にも耐えられるように改善を行った。
- ② メールサーバを新たなレンタルサーバに更新する際に、旧サーバを1ヶ月間並行運用し、受信メールに漏れ等がないように対策を取った上で更新を実施した。
- ③ Windows 7 のサポート終了への対応は、昨年度から計画的に行い、サポート終了前に更新を完了した。
- ④ IP 電話を導入した際に、電話番号の整理を行い、利用されていない等の不要な電話番号を廃止し費用削減に繋げた。
また、予算の関係で旧交換機を使用している電話については、順次、新交換機に更新を行う予定であるため、今後もその支援を行っていく。
- ⑤ 有線 LAN における MAC アドレス認証については、導入可能なことが確認できたため、来年度以降に順次導入を進めていく。
- ⑥ 学内全ての部署に IT 資産調査を実施した結果、未登録の資産がない状態となったこととともに、各教職員の管理意識の向上が図れた。今後は、IT 資産管理フローを完成させ、登録漏れのないように進めていく。
また、IT 資産の処分を業者に委託したことにより、業務の効率化が図れた
- ⑦ 情報セキュリティ監査で指摘のあった事項について、順次改善を図っていく。
- ⑧ 建物の出入口等に電子錠の導入を進めており、今年度は予算の関係で未着手であったが、来年度以降の導入に向けて順次、支援を行っていく。

(3) 今後の展開

令和2年度に図書館改修工事が予定されているため、そのネットワーク整備作業を計画していく。

10. 国際化推進（グローバル教育センター）

（1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、筑波大学連携事業、留学生受入、海外学生派遣・受入及びトビタテ留学 JAPAN への応募などの取り組みについて、各所掌において着実に実行に移した。ただし、年度末に予定していた学生派遣や海外大学への視察等は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大のため実施を見送った。

令和元年度は、高専機構の「高度グローバルエンジニア育成プログラム」にも採択され、今後、従来からの取り組みをさらに発展させていくための準備にも着手した。（各内容は、以下の該当事項のとおり。）

①JSTS / ISTS 2017 への学生派遣

ISTS は、国際的な場でのコミュニケーション能力及び多様な集団で協働する能力の向上、国際感覚の涵養を目的としたイベントである。今年度においては 10 月 8 日（火）から 12 日（土）に開催され、高専機構・長岡技科大・豊橋技科大とタイ王国・タマサート大学ランシットキャンパスとが主催した（高専機構側の担当校は福島高専）。本校からは 2 人の学生を校長推薦として派遣した。参加学生は、多言語・多国籍のチームの中で、SDGs17 をベースとしたワークショップや様々な交流活動に参加し、グローバルな環境で協働する能力を培った。

②筑波大学連携事業

グローバル工学基礎（PBL 演習）

令和元年 8 月 26 日（月）から 8 月 29 日（木）の 4 日間、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義・グローバル工学基礎（PBL 演習）を実施した。今年度のテーマは “Climate Change- Impacts and Solutions” で、3 人の学生（4 年生 1 人、5 年生 2 人）が受講した。

専攻科生インターンシップ

包括的連携協定に基づき調整した結果、以下のとおり 2 人の専攻科生のインターンシップ受入が実現した。

| 所属コース | 受入研究室 | 実習期間 |
|-----------|-------------------------|------------------------|
| 電気電子工学コース | 知能機能システム専攻 医用生体工学研究室 | 8 月 26 日（月）～9 月 6 日（金） |
| 応用化学コース | 化学専攻 放射化学研究室 | 9 月 2 日（月）～9 月 6 日（金） |

③留学生（正課生）の受入

本科3年生に男子2人女子2人(マレーシア、モンゴル、カンボジア)、本科1年生に男子2人(タイ)の計6人の留学生を新たに受け入れた。本科2年在籍の男子1人(タイ)が奨学金支給停止のため10月末に退学した。

④タイ留学生受入

令和元年度も本科1年次にタイ留学生を受け入れた。留学生支援体制の強化を目的に、グローバル教育センター内に「PCSHS ワーキンググループ」を設置。タイ留学生を中心とした学習・生活支援の情報を集約し、指導を効果的に遂行する体制を整えた。

⑤ 本校留学生の活動支援

令和元年6月30日(日)には日光方面へ留学生研修旅行(華厳の滝、サンドブラスト体験など)、令和2年2月1日(土)には東京方面への留学生卒業研修旅行(江戸東京博物館、鉛細工体験など)を実施した。

令和元年11月16日(土)の日本語特別授業では、日本の陶芸について学ぶ文化体験(日動美術館、笠間焼体験など)を実施した。

また例年同様に、留学生の健康管理のため成人病検診(血液検査)、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

⑥語学研修

英語圏での海外研修を通じて国際感覚を身につけ英会話の実践的能力を高めることを目的とし、本科生を対象に語学研修を実施した。今年度はこれまで複数あった語学研修の派遣先をカナダ・バンクーバーに一本化し、募集対象学生も全学年として実施した。派遣期間は夏季休業中の令和元年8月31日(土)から9月15日(日)で、17人の学生(1年生3人、2年生1人、3年生11人、4年生2人)が参加した。滞在中はカナダの一般家庭にて、家族の一員として生活を送りながら、現地の語学学校で多国籍のクラスメートと一緒に英語学習やアクティビティ等を体験した。

⑦朝鮮理工大学の短期留学生受入

韓国・朝鮮理工大学との間で平成22年度に締結した学術交流協定に基づく受入プログラムを実施した。令和元年度は同大自動車科の学生とともに電気自動車を製作する協働プログラムを実施することとなった。令和2年2月4日(火)から2月12日(水)にかけて、同大の男子学生5人を受入れた。電気自動車制作チームのキックオフをおこなったあと、製作計画の作成に着手したほか、自動車メーカーの工場見学や大学の研究センターを訪問し、電気自動車製作の一助とした。

⑧朝鮮理工大学インターンシップ派遣

上記同様に学術交流協定をもとに継続している派遣プログラムの一環で、今年度は8月24日（土）から9月7日（土）に7人の専攻科生を派遣した。参加学生らは寄宿舍での現地の学生と共同生活のもと、専門分野に関連する実習、韓国語講座や現地企業見学を通じて国際感覚を培った。これらの学生には活動実績によりインターンシップの単位を認定した。

⑨台湾聯合大学学生受入

令和元年7月4日（木）から7月26日（金）に、国立高等専門学校機構と台湾聯合大学との学術交流協定に基づき、台湾の技術教育及び文化事情に触れ、科学的、文化的理解を深め、グローバルな視野を養うことを目的とした受入プログラムを実施し、1人の短期留学生を受入れた。受入期間中は化学・生物・環境系に所属し、ミニ卒研を実施した。

⑩インドネシア・ガジャマダ大学学生派遣

令和2年3月に派遣を予定していた本派遣においては、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

⑪インドネシア・ガジャマダ大学学生受入

令和元年10月2日（水）から11日（金）に、インドネシア・ガジャマダ大学 Vocational College の学生と本校学生間において協働で行う専門分野に関する PBL (Project Based Learning) 型短期プロジェクトを実施するため、4人の短期留学生を受入れた。本計画の趣旨は、高専の実践的教育を体験するだけでなく、双方の学生が相手の立場を尊重しながら成果を上げる重要性を学ぶことであった。英語を主要コミュニケーション言語とし、双方の学生が母国語ではない共通言語を介して行う協働作業を体験できた。

⑫フランス・ルーアン応用科学大学学生派遣

令和2年3月に派遣を予定していた本派遣においては、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

⑬フランス・ルーアン応用科学大学インターンシップ学生受入

フランス・ルーアン応用科学大学と平成元年に締結した学術交流協定をもとに、科学的・文化的な相互交流を目的として令和元年度も6月3日（月）から9月6日（金）の期間において8人のインターンシップ学生を受入れた。受入学生らは専門分野に基づき、本校の研究室にて実践的な研究やティーチングアシスタントの活動を行った。

⑭世界展開力強化事業（メキシコ）学生受入

7月15日（月）に、長岡技術科学大学を中心とした世界展開力強化事業（中南米）への参加に端を発したメキシコ・グアナファト大学との学術交流協定に基づき、グアナファト大学高専コースとの教職員間及び学生間の交流を図るプログラムを実施し、9人の学生及び2人の教職員を受け入れた。受入学生らは実験・実習などを体験したり、交流会においては日本人学生との学生間交流を行ったりした。

⑮世界展開力強化事業（メキシコ）学生派遣

令和2年3月に派遣を予定していた本派遣においては、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

⑯カナダ・クワントルンポリテクニク大学（KPU）への学生派遣プログラム

「世の中のために、どこでも誰とでも働けるグローバル・エンジニア」の育成を目指し、令和元年度に JASSO の採択を受け、KPU と学術交流協定を締結した上で発足された。他高専との合同で実施する本プログラムは、本校の学生に加え複数の高専からの参加希望者が決定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴いやむなく中止となった。

⑰トビタテ留学 J A P A N への応募

官民協働の海外留学支援事業である本プログラムへの応募について、昨年引き続き学内説明会を開催するなどして、積極的に応募を支援し、大学生コース（第12期）に1人、高校生コース（6期）に3人が応募した。

⑱ひたちなか市国際交流協会との連携

喜多英治校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務め、各種行事等の実施を通じて地域と本校との国際分野での連携を深めた。

令和元年7月14日（日）にひたちなか市国際交流協会が主催して実施された「第8回国際交流文化祭」では本校が後援し、本校の留学生による日本語スピーチの披露や出身国の紹介があった。

その他例年同様、ひたちなか市国際交流ボランティアバンクを通じて本校留学生のホストファミリーを委嘱した。留学生らが日本の家庭生活を体験し、異文化理解を深める機会となった。

⑱第2ブロックグローバル化推進会議

令和元年6月14日(金)に、「令和元年度 第2ブロックグローバル化推進協議会」が群馬高専にて開催された。本校を含め第2ブロック内の9高専からグローバル化担当の教職員計11人が集まり、各高専におけるグローバル事業についての情報共有ならびに連携の模索、海外インターンシップの情報共有や合同開催による内容の充実と教員負担の軽減の可能性などについて話し合った。

⑳協定の締結

(1) タイ PCSHS ペチャブリ校

令和元年6月10日(月)、チュラポン王女サイエンスハイスクール(PCSHS)・ペチャブリ校との覚書を締結した。今後、長期休みの期間を利用した学生交流のほか、インターネットを通じた交流や協働プロジェクトを計画していく予定である。

(2) メキシコ・マグノバイカルチュラルカレッジ(MAGNO)、および南グアナファト高等科学技術学校(ITSUR)

平成31年2月に本校教員が両校へ訪問し、覚書締結に向けて準備を進めることとなった。そして、同年8月にそれぞれの学校と覚書の取り交わしを郵送にて行った。MAGNOは主には低学年向けで日本との文化交流を、ITSURは技術面での交流の展開が期待できる。

本協定に基づき、令和元年9月2日(月)から9月6日(金)までの1週間、4年電子制御工学科の学生1名がMAGNOへ文化交流を目的として訪問した。高校3年生の理数系クラスへ滞在し、数学、物理、化学、ロボティクスなどの授業を受けるとともに、日本語のクラスでは講師を務め日本文化を紹介するなどした。

現段階ではMAGNOとITSURとの覚書には特段の支援予算がないため、今後はさくらサイエンス等の助成への申請を行っていく。

(3) カナダ・クワントルンポリテクニク大学(KPU)

夏季休業中のカナダ語学研修時に現地にて担当者との打合せを実施し、その後メールを通じた協議を重ね、令和2年1月20日(月)にKPUとの覚書を取り交わした。令和元年度の派遣はやむなく中止となったものの、今後、英語研修や文化交流を通じた学生交流を計画していく予定である。

②①海外協定校開拓及び視察

令和元年度は、カナダ・シンガポール・マレーシア・インドネシアを担当教員が訪問し、今後の学生交流に向けて現地調査や交渉を行った。既存の協定校である朝鮮理工大については交流内容の見直しのための打ち合わせを行った。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行のため、新規開拓予定先である INSA グルノーブルについては渡航を見合わせたほか、令和2年度に協定の更新時期を迎えるガジヤマダ大職業訓練大についても現地訪問がかなわなかった。

②②グローバル教育センター会議

1) 第1回

開催日：令和元年6月5日（水）

議 題：1. グローバル教育センター構成員について

2. 業務分担について

3. 海外協定について

2) 第2回

開催日：令和元年7月11日（木）

議 題：1. 今年度のグローバル教育センター予算及びタイ留学生受入費用について

2. タイ留学生への補習について

3. タイ PCSHS ペッチャブリ校との協定締結について

4. 協定書の英語版チェックにかかる学内への協力依頼について

5. 第2ブロックグローバル化推進協議会について

6. 各事業の進捗報告について

3) 第3回

開催日：令和元年9月17日（火）

議 題：1. タイ留学生への学習補助について

2. グローバル高専事業 H29・30 報告書について

3. 資金および地域貢献について

4. 各事業の進捗報告について

5. その他

4) メール審議

開催日：令和元年9月18日（水）

議 題：1. タイ留学生への学習補助について

5) 第4回

開催日：令和元年11月14日（木）

議 題：1. タイ留学生に関する報告について

2. PCSHS 対応ワーキンググループの設置について

3. グローバル教育センター関連予算について

4. 朝鮮理工大受入プログラムについて
5. カナダ KPU との協定について
6. さくらサイエンスプラン関連報告について
7. その他

6) 第5回

開催日：令和2年2月18日（火）

- 議 題：1. 春季学生派遣における対応について
2. 今年度のグローバル関係予算について
 3. 各事業の状況と次年度への申し送りについて
 4. 事業報告書の作成について
 5. その他

7) メール審議

開催日：令和2年3月16日（月）

- 議 題：1. 来年度タイ留学生のサポート体制について

(2) 自己評価（改善含む）および課題

①JSTS / ISTS 2017 への学生派遣

ISTS/JSTS については、今年度主催の福島高専の取り纏めのもと、本校においては派遣学生との橋渡しと精算手続きを行った。旅費精算における昨年度の反省点を活かし、滞りなく学生の派遣支援を終える事ができた。

②留学生（正課生）の受入

留学生（正課生）の受入れ時には、住民登録や国民健康保険加入、口座開設、携帯電話購入など各種手続きの支援が必要となってくるが、本科1年生の場合は、年齢が低いことと日本語能力が不十分であることから受け入れ時には更にきめ細やかな支援が必要である。

③タイ留学生受入

タイ留学生が1人退学する事案があり、よりタイ留学生の学習・生活支援の情報を集約し、指導を効果的に遂行する必要があることから、グローバル教育センター内に「PCSHS ワーキンググループ」を設置し、体制を整えた。

今後は、タイ留学生にさらに細かなサポートを図っていく。

④本校留学生の活動支援

留学生の研修旅行や日本語特別授業を通じ、本校留学生らに日本文化体験の機会を提供することができた。

また、留学生の麻疹予防接種については、出身国によって制度や健康管理に対する意識に温度差があるため、必要性について理解してもらうことが困難であるが、学生寮で健康に集団生活を送るためにも引き続き推奨していく。

⑤語学研修

今年度から語学研修の派遣先をカナダに統一した。複数国へ学生を派遣していた例年に比べ、各学生へのフォローが行き届き派遣学生の報告からも満足度が高かった事が伺えた。

⑥朝鮮理工大学の短期留学生受入

今年度は韓国の自作自動車の大会へ協働参加するために、茨城高専一朝鮮理工大学 EV 自作自動車制作チームのキックオフミーティングが実施された。新しい試みである日韓協働プログラムの成功に向けて今後も双方で調整をしていく。

⑦朝鮮理工大学インターンシップ派遣

例年続いている人気の海外研修であり、例年一定数の参加希望者がいる。内容については派遣先で既にマニュアル化されているが、学生にとって魅力的なプログラムであり続けるためにも、学生のニーズを踏まえつつ、双方の担当者間で定期的に内容について見直し作業を行っていく。

⑧台湾聯合大学学生受入

派遣元の学生の専門と本校の専門領域が合致しないケースがあり、受入体制の確保の観点から派遣前の十分なすり合せが必要と考えられる。一方で交流会や模擬卒研の場においては、学生間の活発な交流が見られ、短期留学生と本校学生の双方にとって有意義であった。

⑨インドネシア・ガジャマダ大学学生受入

さくらサイエンスプラン事業の採択を受け、派遣元の学生負担が発生せず実施する事が可能となった。今後も学生受入れを継続するにあたって、両国の経済状況の違いにおける留学生の負担軽減のため、資金確保の方法を検討していく。

⑩フランス・ルーアン応用科学大学インターンシップ学生受入

研究開発やティーチングアシスタントの実務活動を行い、参加学生には好評を博した。本校の受入期間としては3ヶ月間と長期に分類され、本校の学生にとっても国際交流の良い機会となっている。

⑪世界展開力強化事業（メキシコ）学生受入

訪問滞在期間は一日と短期であったが、その中でミニ講義の受講、化学実験体験、歓迎交流会等と多岐に渡り、本校の学生と時間を共有した。特に化学実験や交流会においては活発な学生間交流が見られ、両校において異文化交流の有意義な機会となった。

⑫トビタテ留学 J A P A N への応募

高校生コース

- ・ 5期派遣学生の2人がカナダ及び米国にてインターンシップ等を行い帰国。
- ・ 6期生は新型コロナウイルスの影響で採用中止となった。

大学生コース

- ・ 10期派遣学生の1人がイギリス及びフランスにてインターンシップを行い帰国。
- ・ 12期は1人が採用。13期は新型コロナウイルスの影響にて採用中止となった。

⑬ひたちなか市国際交流協会との連携

ひたちなか市国際交流協会との連携により、本校の国際分野での取り組みを地域に紹介し、また、留学生等が地域の方々と交流する機会を設けることができた。次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑭第2ブロックグローバル化推進会議

第2ブロック内の各高専における学生派遣計画の情報共有だけでなく、学生派遣に関する悩みや懸念について互いに情報の蓄積を図った。特に昨今の海外情勢と照らし合わせると、海外への学生派遣の期間中、有事が発生した場合の対応には各高専がかなり苦慮しており、第2ブロックとして、高専機構全体としてどうしていけばよいかという方向に議論は発展した。

⑮協定の締結

今年度は4件の協定を締結したが、あらかじめ交渉から署名に至るまでのスケジュールを担当教員と共有・確認していたため、滞りなく手続きを完了することが出来た。

⑯海外協定校開拓及び視察

海外機関と協定を取り交わす目的のひとつは、学生相互派遣の継続的实施による交流プログラムの実現である。学生相互派遣を継続実施するためには財源の確保が必要不可欠であり、それぞれの当事者が計画段階から利用可能な財源についても考慮に入れながら協議を進めていく必要がある。

令和2年度は現地訪問が困難な状況ではあるが、海外との行き来が再び可能となった際に速やかに交渉に入ることができるよう、つながりを保つことに努める。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症流行の完全な収束の見通しが立たないことから、令和2年度は学生の海外派遣や受入の実施を見送ることとなった。一時帰国中である留学生の再来日時期についても先行きが不透明であり、年間の留学生行事は例年から大幅な変更を余儀なくされる見込みである。

一方で、学校全体でオンライン授業を導入し、来日が困難になった留学生の学びを止めない取組が始まったほか、ICTを活用して海外の協定校とつながり、交流の停滞に歯止めをかけることも検討されている。

ICTを活用した取組では、従来、経済的な理由や長期間の不在が困難である等の理由で海外研修や海外留学への参加をためらっていた学生にも国際交流の機会を提供できるだけでなく、奨学金や事業予算等に頼らない持続可能な国際交流スタイルの構築につなげていくことも期待できる。

1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

（1）取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①「女性教員紹介リーフレット」の作成

本校の女性教職員を写真及びメッセージにて紹介するリーフレットを作成した。裏面は、「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の縮小版を印刷した。

発行部数は1,200部で、主に中学生を対象に、中学校訪問及び一日体験入学にて配布した。

②「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の作成

本校では、女性のさらなる社会進出を応援すべく、女性エンジニアの育成・輩出に努めている。技術者・科学者をめざす女性たちの夢を後押しする教育機関として、高専の存在をより広く知っていただくことを目的とし、本ポスターを作成した。

発行部数は250部で、主に中学校訪問時に配布、そのほかひたちなか市庁舎、図書館及び商工会へ郵送し、掲示を依頼した。

③女子中学生向けパンフレット「Girls × Technology」の配布

女子中学生を対象に、女子学生目線で本校を紹介することを目的とし、本校女子学生が中心となり編集し作成した。

2年分として1,000部発行し、令和元年度は主に中学校訪問時及び一日体験入学の女子カフェにて500部配布した。

④盗聴器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員と女性教職員の協力のもと、校内男子トイレ、女子トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗聴器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

⑤第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和2年1月8日（水）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：LGBT 支援団体 RainbowCreate 定政 輝氏、河崎 桃子氏

⑥女性関連設備整備の実施

女性関連設備について、第2教室棟3階女子更衣室の破損したブラインドを撤去し、新たに遮光カーテンを設置した。

⑦男女共同参画推進センター運営委員会

1) 第1回

開催日：令和元年5月30日（木）

- 議題：1. センターの役割について
2. 平成30年度活動実績報告について
3. 令和元年度年度計画について
4. 令和元年度活動内容について
5. 女子中学生向け広報誌について
6. 茨城高専女子学生PRポスターについて
7. 女性教員紹介リーフレットについて

2) メール審議

開催日：令和元年6月7日（金）

- 議題：1. 女性教員紹介リーフレットについて
2. 女子中学生向け広報誌について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」は、本校の存在と男女共同参画推進の取り組みを、一般市民に広く認知してもらうことを目的としている。ひたちなか市庁舎等に配布したことにより、ある程度本校の認知向上に繋がったと思われる。「女子中学生向けパンフレットGirls × Technology」「女性教員紹介リーフレット」については、女子中学生に好評であったため、次年度も引き続き配布を行う。
- ② 盗聴器等調査の実施について、令和元年度は女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室も調査の対象とした。全教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 女性関連設備整備について、平成30年度男女共同参画推進センター運営委員会で整備が必要な設備の情報を収集、予算要求をした上で令和元年度に整備を実施したことにより、女子更衣室の環境を向上することができた。次年度も引き続き、男女問わず施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。

(3) 今後の展開

ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

（1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長（地域連携・評価）】

①茨城工業高等専門学校における研究活動に関する目的、基本方針の策定について

（目的、基本方針）

高等専門学校では、教育と研究は表裏一体の関係にあり、教育は研究活動により培われた専門知識の深い理解を基盤に行われるべきものである。また、研究活動は、単に教育・学術的な目的で教員、学生の資質を向上させればよいというものではなく、その成果は、地域産業界だけでなく最終的には我が国の社会全体に還元されて初めて、高等教育機関の使命が達成されるものとなる。さらに、産業界との連携の中で、共同研究、受託研究等を進めながら外部資金を本校に導入し、本校の教育研究基盤経費の安定的な確保を図ることも研究活動に課せられた重要な役割である。

そこで、これらの観点から、本校の研究活動の目的を以下の通りとする。

茨城工業高等専門学校における研究活動は、教育の充実・高度化、社会貢献、および自己研鑽に寄与することを目的とする。

さらに、上記目的を達成するため、下記の方針により研究活動を推進する。

1. 学協会での定期的な発表あるいは学協会誌への論文の投稿に結び付く研究内容及び研究活動の推進
2. 各教員の研究成果の地域社会・産業界への発信
3. 研究成果の教育活動への還元
4. 地域産業界との連携と技術相談の推進
5. 共同研究、受託研究等による社会貢献と外部資金の導入

②茨城工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的、基本方針の策定について

（目的、基本方針）

高等専門学校は、大学とともに、その地域社会の学術情報の源泉であり、地域に開かれた空間を目指すべきである。高等専門学校が具备している知的資源は、公開講座等の教育サービスを通して地域住民に還元するだけでなく、各種施設はできる限り市民に開放することが望ましい。さらに高等専門学校は、地域の行事・催物への積極的な支援活動や科学技術創造立国である我が国の次世代を育成するための地域小中学生への理工系分野の啓発活

動を通して地域に貢献し、地域と共生した高等教育機関を目指す必要がある。

そこで、これらの観点から、本校における地域貢献活動の目的を以下のとおりとする。

茨城工業高等専門学校における地域貢献活動は、本校の人材、設備、および知的資源の活用により、地域社会に貢献することを目的とする。

さらに、上記目的を達成するため、下記の方針により地域貢献活動を推進する。

1. 地元の職業人や一般市民を対象とした定常的な公開講座を通じた地域社会へ貢献
2. 学校施設の市民開放を通じた地域社会への貢献
3. 行事・催物の支援を通じた地域社会への貢献
4. 地域自治体との連携による地域社会への貢献
5. 地域小中学生への理工系分野の啓発活動を通じた地域社会への貢献
6. 地域産業界との連携による地域社会への貢献

③COCプラス事業関係

1) キャリアデザイン講座の実施

本科3年生を対象に、地元企業の技術者を講師として招き「キャリアデザイン・基礎講座」を10月2日に実施した。また、本科1年生を対象に、本校専攻科2年生3人を講師として「キャリアデザイン・スタートアップ講座」を12月4日に実施した。さらには、本科4年生、専攻科1年生を対象に、12月3日～12月11日にかけて1人1回約30分の自己分析シート、エントリーシートの添削指導及び模擬面接指導が受けられる「キャリアデザイン実践講座」を実施し、29人が受講した。

なお、「キャリアデザイン実践講座」は、茨城工業高等専門学校同窓会協力のもと行われ、メンター（講師）12人を派遣いただいた。

2) ジョブセミナー2019の開催

12月18日に茨城高専の第1体育館において「ジョブセミナー2019」を開催し、184人の学生、30社の企業が参加した。8割以上の学生から地元企業に魅力を感じたとの回答を得た。

④茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

教育研究助成のためとして310,000円の寄付金を受領し、下記の事業を実施した。

1) 茨城高専活動支援

《実施事業》

(a) 国際交流事業（朝鮮理工大学との交流活動費）12,950円

令和元年6月3日から令和元年9月6日にかけて、フランスのルーアン応用科学大学から短期留学生を計8人受入れた。電気・電子系の3人が6/3～8/23、情報系の3人が6/17～8/23、情報系の2人が6/17～9/6、電気・電子系及び情報系の研究室にて、実務研究及びTA業務に従事した。滞在中に大谷 明ひたちなか市長

を訪問した。休日には大洗にある水族館へ見学に行き、ひたちなか市近隣の魅力を伝えた。

また、令和2年2月4日から令和2年2月12日にかけて、朝鮮理工大学生6人と教員1人を受入れた。交流活動に事業費を使う予定であったが、先方の研修費にて賄えたため、事業費の残額37,050円は来年度の国際交流事業に使用する。

(b) 茨城高専 Startups (KICS) 支援事業 200,000円

KICS (Kosen, Ibaraki College Startups) は学生自らが発見した課題を解決するための方策を考えたり、全く新しいものや仕組みを創造したりすることを目的に、学生が自律した創造活動を行うための組織である。10号館(専攻科棟)3階の一部屋に拠点を設け、主な活動場所としている。

事業費にて取得したのは、情報関連の書籍2点、PC関係部品、ディスクッション及プレゼンテーション用プロジェクター1台、航空法規制外の小型ドローン1台、居室のスマートロック登録等に使用するiPad1台及び付属品、ホワイトボードマーカー等文房具である。

【令和元年度実績】

I) 8/10 東京で開催された「Hack U 2019」(ヤフー(株)主催、国立高等専門学校機構後援)に本校学生4人が出場した。なお、出場者は国立高等専門学校機構の審査を経て、推薦による出場である。限られた期間の中で学生が「ものづくり&発表」を行う開発コンテスト。7/22~8/9の間に作品を創り、8/10に東京で開催された発表会で作品を発表した。

II) 8/10, 8/11, 8/31, 9/1に本校で開催されたWeb×IoTメイカーズチャレンジ in 茨城 2019-20に本校学生4人(2チーム)が出場した。その結果、本校の本科1年生と他高専の本科4年生1人、社会人2人のチームのアイデア「CPRSS(カプラス)~CPR支援システム~」が最優秀賞を受賞した。また、本科1年生3人のチームのアイデア「スマートスピーカーを使った老人の見守りシステム」が審査員特別賞を受賞した。

また、2か月に1回のペースで、校内で情報セキュリティ等の情報技術に関する勉強会を学生自身が企画・運営した。

(c) 学生のモチベーションを高める事業 60,000円

令和元年10月25日に専攻科1年生28人が千葉県柏市にある東京大学 柏キャンパス一般公開へ参加した。東京大学柏キャンパスは東京大学の三極構造(本郷・駒場・柏)のなかで学問体系の根本的な組み替えも視野に入れた知の冒険を志向する最先端キャンパスとして設立された。研究室や大型実験施設の見学を通し、環境、生命、宇宙、情報など様々な分野における東京大学の最先端の技術を学ぶことができた。当日はあいにくの豪雨に見舞われ、建物間の移動に苦勞するほどであった。

⑥ 茨城高専ギャラリー2020（開催中止）

3月3日にワークプラザ勝田2階にて、茨城高専の持つ知識と技術を、一般的な観点から整理して社会に発信する機会である「茨城高専ギャラリー2020」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染の拡大及び政府からの「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」を鑑み、2月26日に学内協議のうえ開催中止を決定した。開催中止の連絡は、事前参加申込された方を始めとして、開催案内を送付した会社・機関・団体・個人宛に2月27日に郵送した。実施内容は、第一部を講演の部として、長岡高専 高専教育高度化戦略室長 外山 茂浩教授の講演、本校教員の共同研究事例紹介、第二部を研究発表・技術相談とする予定であった。

⑥ 卒業生の就職相談関係

令和元年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通して3件の就職相談を受けた。就職相談依頼からの流れは、(1) 本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込、(2) サポートセンター役員と相談依頼者とのヒアリング日程調整、(3) ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）、(4) 相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

【相談結果】ヒアリング実施後を記載

- ・ 就職相談1人目
県内企業へ就職が決まる。
- ・ 就職相談2人目
応募したいと思える企業を自ら探して応募に向けた準備を進める。
- ・ 就職相談3人目
希望業種の企業を見学後、見学した企業とは別の県内企業へ就職を志望。
※令和2年4月に県内企業への就職が決まる。

【地域共同テクノセンター】

① 茨城高専知財委員会による審査

発明等届審査：1件、審査請求等審議：4件、年金納付審議：4件を実施した。詳細は下記のとおり。

| 区分 | 名称 | 担当教員 | 審査結果 |
|-------|---|---------|------------|
| 発明等届 | 給電装置 ※企業との共同出願 | E系 長洲教授 | 機構へ提出 |
| 審査請求等 | 特願 2015-198366 結晶化分析装置及び結晶化分析方法（拒絶理由への反駁1回目） ※高専機構単独 | E系 若松教授 | 拒絶理由への反駁する |
| 審査請求等 | 特願 2015-198366 結晶化分析装置及 | E系 若松教授 | 拒絶理由へ |

| | | | |
|-------|---|--------------------|--------------------|
| | び結晶化分析方法（拒絶理由への反駁 2回目） ※高専機構単独 | | の反駁する |
| 審査請求等 | 特願 2016-215517 植物栽培装置 ※企業との共同出願 | M系 岡本教授 M系 柴田教授 | 審査請求 する |
| 審査請求等 | 特願 2017-11220 点検装置 ※企業との共同出願 | M系 岡本教授 M系 柴田教授 | 審査請求 する |
| 年金納付 | 特許登録第 5626914 号 生体高分子の 結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液 セル、生体高分子の配向制御方法、生 体高分子の結晶化方法、及び生体高分 子の結晶 ※高専機構単独 | E系 若松教授 | 年金納付 する 第6年分 |
| 年金納付 | 特許登録第 5821127 号 タンパク質結 晶化分析装置及びタンパク質結晶化分 析方法 ※高専機構単独 | E系 若松教授 | 年金納付 する 第5年分 |
| 年金納付 | 特許登録第 5858274 号 結晶化促進方 法、結晶化解析方法、結晶の製造方 法、結晶化装置の制御プログラム、記 録媒体、及び結晶化装置 ※高専機構 単独 | E系 若松教授 | 年金納付 する 第5年分 |
| 年金納付 | 特許登録第 5847339 号 非接触交流電 圧測定装置 ※企業との共同出願 | E系 皆藤准教 授 | 年金納付 する 第5年分 |

②研究成果の外部公表

1) フェア等参加

9月4日～6日：JASIS2019「研究機関コーナー」（幕張メッセ）

E系 若松教授

1月21日～22日：第10回化粧品開発東京内アカデミックフォーラム（幕張メッセ）

E系 若松教授

2月20日：めぶきFGものづくり企業フォーラム2020（つくば国際会議場）

M系 柴田教授、M系 岡本教授、クルト係員

2) 学内からの発信

研究彙報（第55号）（I系 兒玉特命教授、M系 平澤准教授、L部 久保木助教投稿）を
作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表する。また、茨城高専シーズ集の

PDF版を茨城高専ホームページに掲載している。

※茨城高専 HP 掲載場所 HOME/施設センター紹介/茨城高専地域共同テクノセンター

③校長裁量経費の活用

研究推進経費として総額 700,000 円を L 部 佐藤准教授、C 系 小松崎教授、C 系 澤井助教、C 系 鈴木（喜）特命准教授の 4 人に配分した。なお、申請者は計 7 人であり、研究推進委員会において審査の結果 4 人を採択した。また、論文投稿支援事業として総額 121,800 円を M 系 平澤准教授、E 系 若松教授、E 系 澤畠准教授の計 3 人に支援した。

④ひたちなか市との包括連携協定関係

1) なかネットワークシステム(NNS)関係

5月31日：通常総会・交流会（ひたちなか商工会議所）佐藤副校長、市毛副校長
M系 長谷川准教授、吉田事務部長、鈴木総務課長出席

9月2日～6日：ジョブシャドウ型インターンシップ参加学生 7 名（M 科 4 年生 1 人、S 科 4 年生 2 人、D 科 4 年生 4 人） 受入企業 9 社（㈱アサイン、アポロアイシーティー㈱、㈱エムシー、関東技研㈱（東海村）、㈱シーアンドエーソリューション、㈱SAYコンピュータ、平沼産業㈱（水戸市）、FLEXCEED㈱（那珂市）、㈱ヨシダ（水戸市））受入企業を会員企業から調整して実施。

9月14日：コーディネーター養成講座 実践講義 講演者 市毛副校長

1月29日：NNS 新年賀詞交歓会（ひたちなか商工会議所）喜多校長、原副校長、市毛副校長、M系 長谷川准教授、吉田事務部長、鈴木総務課長出席

2月7日：NNS ひらめきサロン（茨城高専第Ⅱ教室棟 2 階 MM パソコン教室）

演題：古生物学者が高専で世界一の『魚の研究』をしているという謎
（講師 茨城高専 C系 石村 豊徳 准教授）

演題：茨城高専における起業マインド教育の紹介と体験デザイン思考のワークショップ

（講師 レフィクシア株式会社 代表取締役・本校 特命助教 高安 基大 氏）

2) 市民大学の開講

電磁気学入門を図書館棟 1 階視聴覚室にて下記の日程で開講した。

| 回 | 開催日 | 講義内容 | 講師 |
|---|-------|--------|-------|
| 1 | 6月8日 | 電荷と力 | 原教授 |
| 2 | 6月22日 | 電場 | 原教授 |
| 3 | 7月6日 | ガウスの法則 | 原教授 |
| 4 | 8月3日 | 電位 | 原教授 |
| 5 | 9月7日 | 電流 | 佐藤准教授 |

| | | | |
|----|--------|-----------------------------|-------|
| 6 | 10月19日 | 磁場 | 佐藤准教授 |
| 7 | 11月9日 | 電磁誘導 | 佐藤准教授 |
| 8 | 11月23日 | マクスウェル方程式 | 佐藤准教授 |
| 9 | 11月30日 | 研究紹介「磁場によって生じる物質の多彩な現象」 | 佐藤准教授 |
| 10 | 12月14日 | 研究紹介「電子の動きで理解する半導体、超伝導体の物理」 | 原教授 |

3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月2日、3日に、ひたちなか市総合運動公園 総合体育館2階にて開催され、茨城高専から下記5件出展した。

- 1 温度で色が変わる絵や文字を書こう！（C系 鈴木教授、佐藤教授、江川講師）
- 2 おもしろパワー！！エレキ・ワールド（E系 皆藤准教授、成教授、澤島准教授）
- 3 プログラミングで図形を描いてみよう（I系 滝沢教授）
- 4 作って楽しい！見て楽しい！ビー玉万華鏡を作ろう！（技術教育支援センター）
- 5 作ろう紙コップロボット（M系 飛田教授、小沼准教授）

4) 産業活性化コーディネーターによる産学連携事業

1月18日実施にて公開講座を計画したが、応募者が足りないため未実施。

5) その他の支援事業

- 1 ひたちなか市学習支援事業「ひたちなか未来塾」への学生協力（1人）
- 2 青少年活動支援事業 令和2年成人の集い への学生協力（2人）

⑤ 科学研究費助成事業講習会の開催

9月11日に、科学研究費助成事業への応募の活性化および採択件数の増加を目的とした令和元年度科学研究費助成事業講習会を大会議室にて開催し、喜多校長、I系 弘畑教授及びM系 小沼准教授が講師として講演した。その後、事務担当者から翌年度の応募についての説明を行った。参加者：教員13人、事務職員2人・技術職員2人。

⑥ 研究推進委員会の開催

令和元年度は15回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

- 1) 第1回：平成31年4月5日（金）メール審議（4月11日（木）17時期限）

議題【審議事項】

1. 平成31年度高専一長岡技科大共同研究の申請順位について（申請2件）

- 2) 第2回：平成31年4月15日（月）メール審議（4月22日（月）17時期限）

議題【審議事項】

1. 研究彙報54号（平成30年度）への投稿論文について

- 3)第3回：平成31年4月23日（火）メール審議（4月26日（金）17時期限）
議題【審議事項】
1. 専攻科棟3階プロジェクト実験室1, 2, 3の利用申請について
- 4)第4回：令和元年6月14日（金）メール審議（6月21日（金）17時期限）
議題【審議事項】
1. 発明等届に関する審議（職務発明であるか、特許性及び市場性、権利帰属について）発明等の名称：給電装置
2. 高専機構間接経費取扱規則に基づき受け入れる間接経費の取り扱いに関する申し合わせ制定（案）について
3. 地域共同テクノセンター実験室等利用細則の改正（案）について
- 5)第5回：令和元年6月24日（月）メール審議（6月28日（金）17時期限）
議題【審議事項】
1. 特許出願審査請求後の拒絶理由への反駁について（出願番号2015-198366）
- 6)第6回：令和元年7月5日（金）メール審議（7月12日（金）17時期限）
議題【審議事項】
1. 令和元年度論文投稿支援事業要項（案）について
- 7)第7回：令和元年7月18日（木）メール審議（7月24日（水）17時期限）
議題【審議事項】
1. 特許出願審査請求について（出願番号2016-215517）
- 8)第8回：令和元年7月30日（火）メール審議（8月7日（水）17時期限）
議題【審議事項】
1. 特許出願審査請求について（出願番号2017-11220）
- 9)第9回：令和元年8月20日（火）メール審議（8月30日（金）17時期限）
議題【審議事項】
1. 令和元年度研究推進経費募集要項（案）について
2. 特許権の年金納付について：第6年度分（特許第5626914号：高専機構単独）
3. 特許権の年金納付について：第5年度分（特許第5847339号：イイダ電子㈱と共同）
- 10)第10回：令和元年9月11日（水）メール審議（9月19日（木）17時期限）
議題【審議事項】
1. 特許権の年金納付について：第5年度分（特許第5821127号：高専機構単独）
- 11)第11回：令和元年9月24日（火）メール審議（10月1日（火）17時期限）
議題【審議事項】
1. 研究彙報掲載論文の転載について
- 12)第12回：令和元年10月8日（火）メール審議（11月19日（火）17時期限）
議題【審議事項】

1. 令和元年度研究推進経費の予算配分について
- 13) 第 13 回：令和元年 11 月 25 日（月）メール審議（12 月 2 日（月）17 時期限）
議題【審議事項 1 件】
 1. 特許権の年金納付について：第 5 年度分（特許第 5858274 号：高専機構単独）
- 14) 第 14 回：令和 2 年 1 月 9 日（木）メール審議（1 月 17 日（金）17 時期限）
議題【審議事項 3 件】
 1. 令和元年度研究彙報第 55 号への研究論文の投稿募集について
 2. 特許出願審査請求後の拒絶理由への反駁について（出願番号 2015-198366）
 3. 知的財産に係る意向調査の回答について（高専機構本部からの依頼）
- 15) 第 15 回：令和 2 年 3 月 27 日（金）メール審議（3 月 31 日（火）12 時期限）
議題【審議事項 2 件】
 1. 研究彙報 55 号（令和元年度）への投稿論文 3 本について
 2. 専攻科棟 3 階プロジェクト実験室 2, 3 の利用申請について

【研究協力・地域連携係関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1) 筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究科 1 人、数理物質科学研究科 0 人）をティーチングアシスタント (TA) として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

また、茨城高専専攻科生のインターンシップを夏季休業期間の 8 月下旬から 9 月上旬に実施した。参加者はシステム情報工学研究科 1 人、数理物質科学研究科 1 人であった。

令和 2 年 1 月 7 日に「ディープラーニングを用いた動画像処理」と題してシステム情報系 助教 飯塚 里志先生をお招きし、主に本校専攻科 1 年生を対象に、先端科学技術紹介講演会を開催した。

②外部資金の受入

令和元年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

| 資金種別 | 受入件数 | 受入金額（円） | 備考 |
|-------|------|-------------|-----------------------------|
| 共同研究 | 16 件 | 8,202,000 円 | 茨城高専に入金がないものは含まない。 |
| 受託研究 | 0 件 | 0 円 | |
| 受託事業 | 2 件 | 336,875 円 | いばらき創業 10,000 社、福島高専からの受託事業 |
| 補助金 | 2 件 | 4,690,345 円 | COC+、水産資源回復対策事業 |
| 研究助成金 | 0 件 | 0 円 | |

| | | | |
|-------|------|-----------------------------------|--|
| 寄附金 | 17 件 | 8,640,889 円 | 教育研究基金 5 件を含む。 |
| 受託試験料 | 1 件 | 158,600 円 | |
| 技術相談料 | 0 件 | 0 円 | |
| 科研費 | 39 件 | 直接 31,607,890 円 間接 9,270,000 円 | 補助金 4 件、基金 23 件、分担金 12 件（研究代表者が学内者の 3 件を含む。金額は含まない。） |

⑦ researchmap への登録

教員に対して researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 茨城高専ギャラリー2020 を新型コロナウイルスの影響により中止した。令和 2 年度の開催にあたっては、これまでの内容を継続するのか、新たな内容にするのか等、内容や時期を検討して実施する。
- ② 卒業生就職相談については、相談を経て県内企業に就職した実績が出来たことにより、主に Uターンを希望する卒業生にとって、再就職先を見つける際の選択肢の 1 つになり得たと考える。現在実施している相談方法は、地域協働サポートセンター役員、本校教員、相談者が本校にて面談する形式（地域協働サポートセンター役員の希望による）であるが、相談者が増えた場合には迅速な対応が難しい。相談者が増えた場合には、より効率的な学内及び学外との連携方法を確立する必要がある。
- ③ 例年配分される校長裁量経費を原資とした研究推進経費については、校長の研究活動に対する考え方を基に事項を設けて執行する。同時に、予算配分に頼らない研究支援や競争的外部資金獲得支援も実施していく必要がある。
- ④ 研究成果の外部公表については、フェア等の募集を学内周知して参加者を募る。また、前回のシーズ集作成から 2 年が経過するので、令和 2 年度に新任教員分を含めて作成を行うこと及び研究彙報第 56 号（令和 2 年度分）の発行について検討する。
- ⑤ 地方創生推進事業 C O C プラス事業終了後の地方創生については、いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）が主体となって進められる。茨城大学他の参加機関（令和 2 年 3 月 31 日現在、本校含めて県内の 13 機関）と連携して地方創生事業を実施する。ちなみに、令和 3 年度のコンソーシアム総会の開催校として本校が予定されている。

(3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。高度の意味は、高専や地域における人材育成の役目を深化させることに加えて、高専の持つ地域や技術を外部で役立ててもらふことであり、技術移転や技術相談、共同研究などが含まれている。これによって高専学生の教育においても地域と連携して効果を上げていけると期待できる。

1 3. 教育組織(教員任用審査会)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和2年4月1日付けで、欠員補充として、一般教養部に講師2人(英語、数学)、助教1人(社会)を採用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、後任補充として、化学・生物・環境系に講師1人を採用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、出向代替教員として、情報系に教授1人を採用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、育児休業代替教員として、一般教養部に講師1人を採用予定であったが、採用予定者から内定辞退の申出があったため、次年度依頼予定の非常勤講師等に打診を行う等して対応していくこととした。

② 昇任

- ・ 系から推薦のあった候補者1人に対し審査を実施したが、研究業績の状況確認及び本人を含めた関係者への意向確認を実施することとなり、保留となった。

③ 命免(職務附加)

- ・ 令和2年4月1日付けで、機械・制御系教授1人、電気・電子系教授1人を専門共通教育部勤務とすることとした。
- ・ 専門共通教育部勤務となった電気・電子系教授を、電気・電子系担当とすることとした。

③ 再雇用

- ・ 令和2年度再雇用を希望する教員2人に対し、国際創造工学科長及び各系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、両人の再雇用計画を承認した。
- ・ 令和2年度に本校での再雇用を希望する他高専の教員1人に対し、機械系教員のため機械・制御系長に受入れの有無について問い合わせた結果、専門分野の整合性、充足状況及び設備状況を考慮した結果、受入れは困難との回答があったため、本校での受入は不可とした。

④ 特命教員

- ・ 令和元年7月1日付けで、グローバルエンジニア育成事業に携わる者として、特命助教1人を採用した。
- ・ 令和2年3月1日付けで、グローバルエンジニア育成事業に携わる者として、一般教養部に特命助教1人を採用した。

- ・ 令和2年4月1日付けで、タイからの学生受入に対応するため、専門共通教育部に特命准教授1人（日本語）、特命助教1人（自然科学）を採用した。
- ・ 学科改組に伴い雇用された特命教員3人全員について契約更新を行うことが確認された。
- ・ 令和元年7月1日付けで雇用された特命助教1人の契約更新を行うことが確認された。
- ・ 令和2年4月1日付けで、特命准教授1人、特命助教1人を一般教養部勤務から専門共通教育部勤務とした。

⑤ 非常勤講師

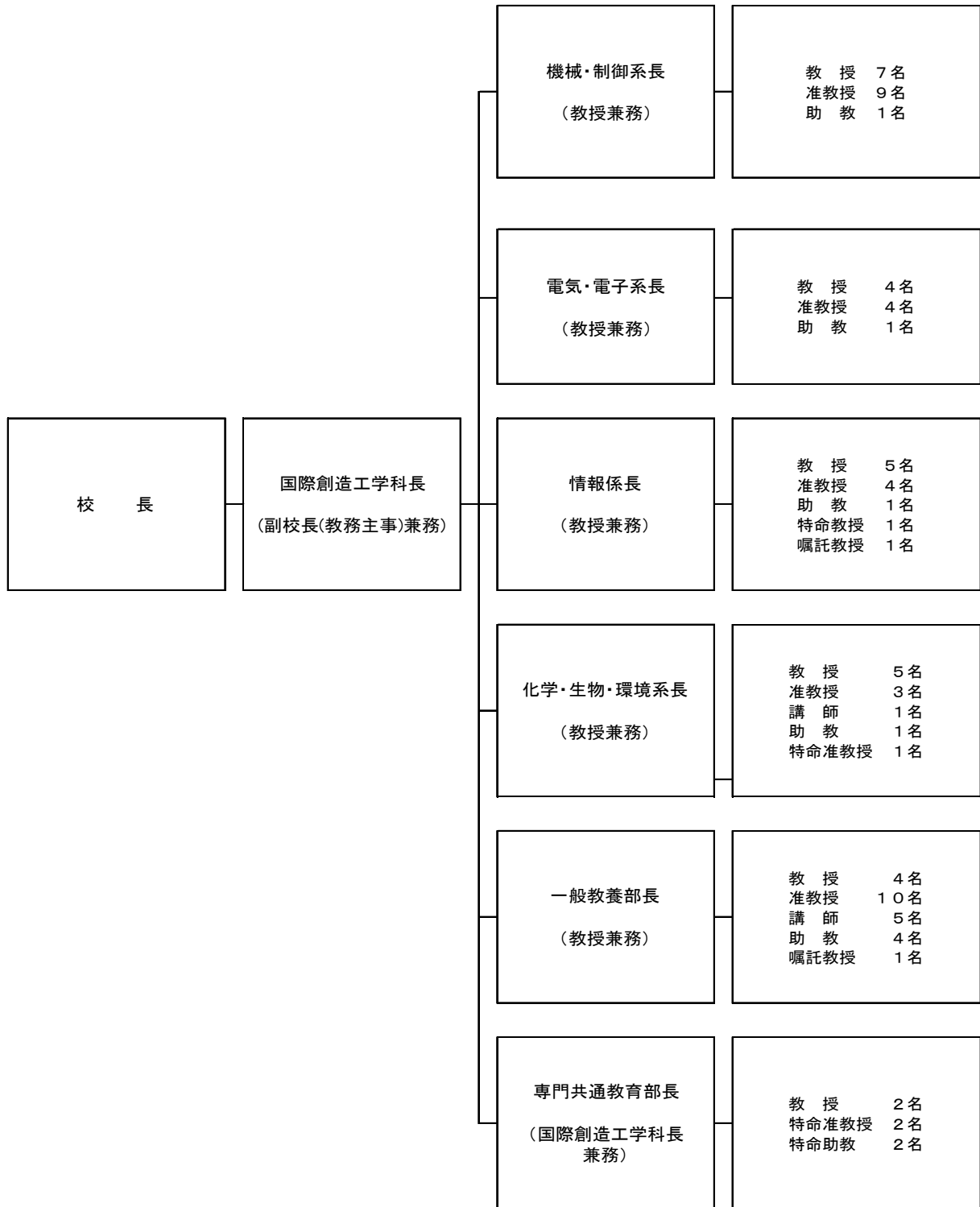
- ・ 令和元年9月19日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師1人を採用した。
- ・ 令和元年11月1日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師2人を採用した。
- ・ 各系等から推薦のあった令和2年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和2年度は42人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

⑥ その他

- ・ 東北大とクロスアポイントメント制度を実施することとなり、高専機構本部の承認後、協定書を締結した。
- ・ 令和2年4月1日付けで他機関へ転任となる准教授1人に対して、客員准教授の称号を付与することとした。

教育職員 配置図

令和2年4月1日現在



※産休、育休中の者を含む。

1 4. 教育支援組織(事務部)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和元年7月1日付けで、育児休業代替職員として、総務課総務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和元年11月1日付けで、病気休職代替職員として、学生課寮務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和2年2月7日付けで、育児休業代替職員として、総務課人事・労務係に係員1人を採用した。

② 復帰

- ・ 令和2年4月1日付けで、高エネルギー加速器研究機構との人事交流により相互に派遣していた職員各1人が派遣元に帰任し、本校においては出向していた職員が総務課施設管理係施設管理主任(命)総務課施設管理係長心得として復帰した。

③ 配置換

- ・ 令和2年2月1日付けで、総務課財務係員を総務課施設管理係に配置換した。

④ 再雇用

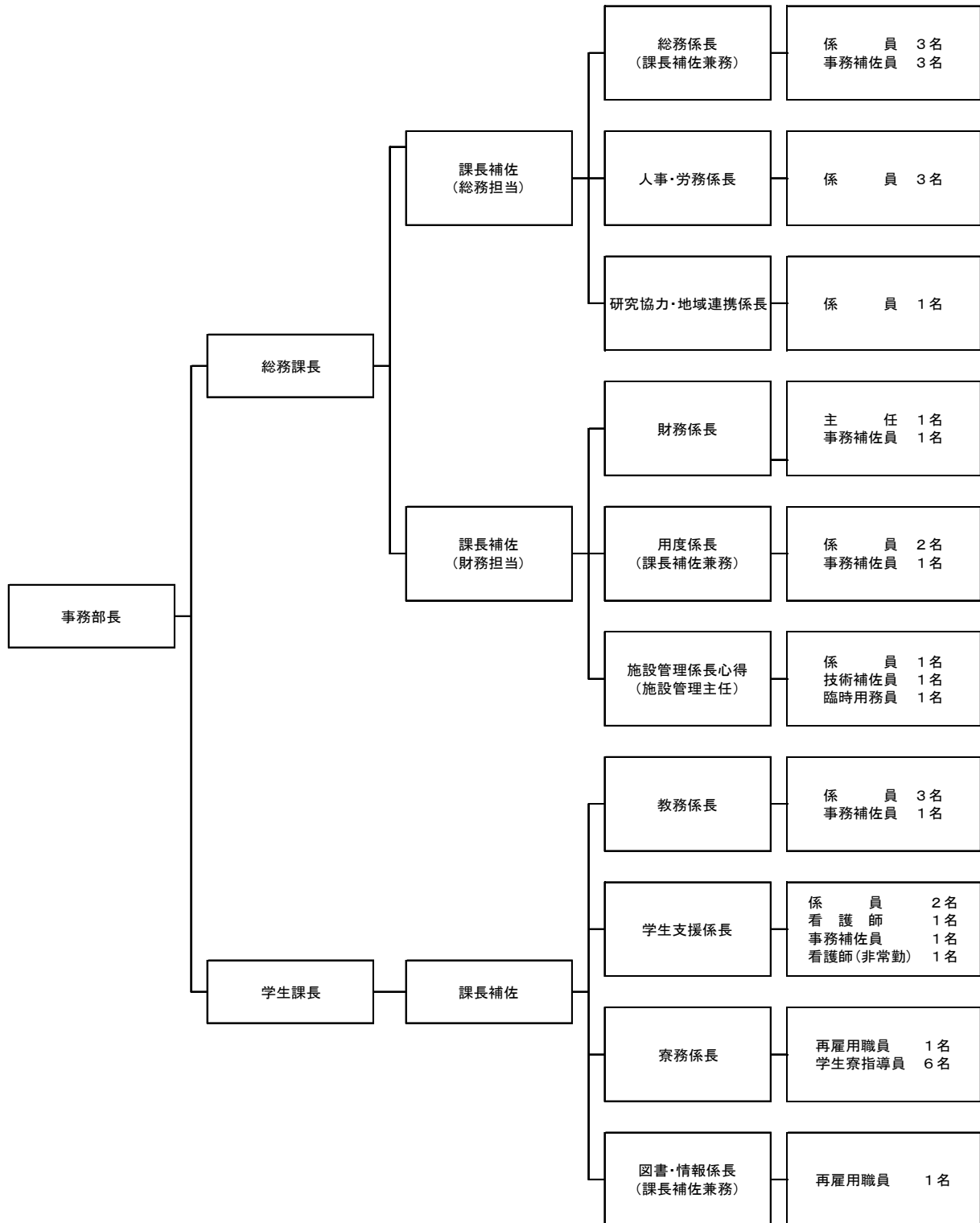
- ・ 令和2年4月1日付けで、本校での再雇用を希望する職員1人を学生課寮務係に再雇用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、学生課図書・情報係の再雇用職員1人の再雇用契約を更新した。

⑤ 非常勤

- ・ 令和元年9月1日付けで、後任補充として総務課研究協力・地域連携係に事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和2年2月7日付けで、総務課施設管理係に技術補佐員1人を採用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、以下の者を採用した。
 - ・ 後任補充として総務課施設管理係に臨時用務員1人を採用した。
 - ・ 後任補充として学生課学生支援係に事務補佐員1人を採用した。
 - ・ 後任補充として産業医1人を採用した。
- ・ 令和2年4月1日付けで、非常勤職員18人(事務補佐員6人、技術補佐員2人、カウンセラー3人、看護師1人、学生寮指導員6人)の契約を更新した。

事務職員 配置図

令和2年4月1日現在



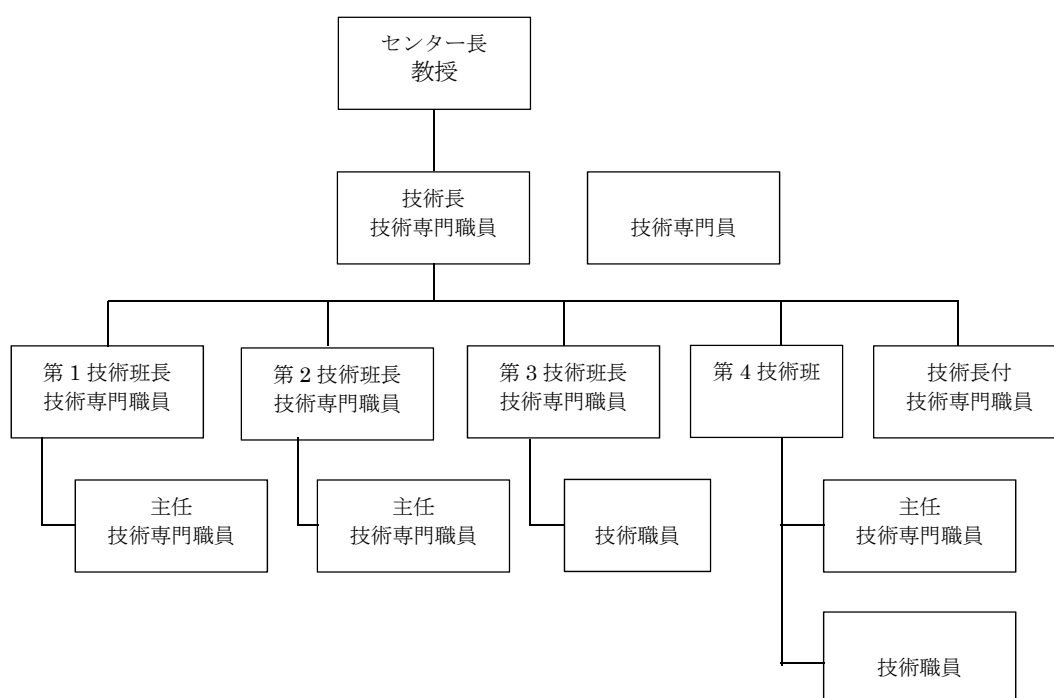
※産休、育休中の者を含む。

15. 教育支援組織（技術教育支援センター）

（1）取組実績

技術教育支援センターは、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

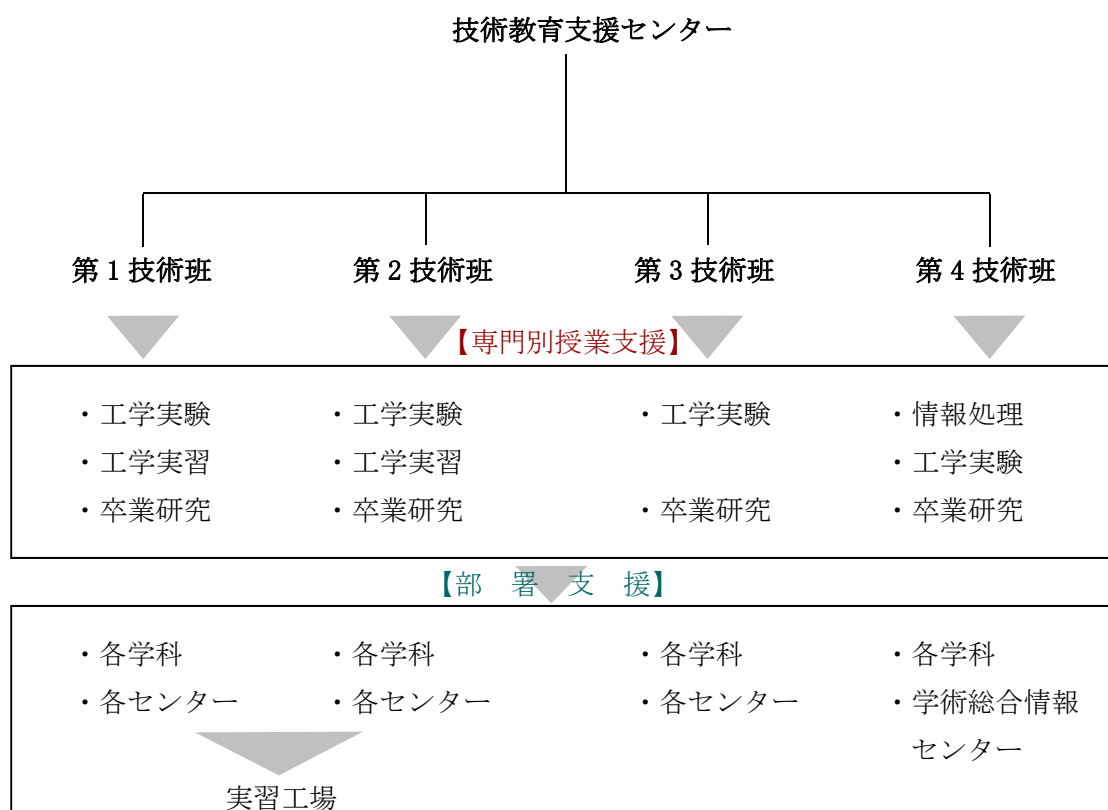
①組織



技術教育支援センター組織構成図（令和元年 4月1日）

②職務内容

- 1) 技術教育支援センターとしての全般的業務
- 2) 各班の業務
 - イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口
 - ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施
- 3) 職務遂行部署（個人の活動部署）



③授業等への支援

支援業務の中核となる実験、実習、演習等への支援は、令和元年度開始前に各学科、各部署から要請を受け、それらを調整し技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表にまとめ原案作成を行った。その後運営会議の了承を得て支援業務を実施した。

④製作、作業支援

“ものづくり”の拠点となる実習工場への期待と需要は年々高まる傾向にあり、依頼製作における形状の複雑化が顕著となっている。卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作支援など全学科のみならず、エコランカー、レース用EVフレームの製作依頼等も増加の傾向にある。また、物質系分野では水質分析を行うなど多岐に渡り手がけた。

⑤講習会等の開催

本センターでは例年、学生の創作活動支援の一環として、部・同好会を対象とした基本機械操作講習会を開催している。本年も講習会を開催し、多くの学生が受講した。

基本機械操作講習会

実施期間：A. 令和元年5月7日（火）8日（水）・14日（火）

B. 令和元年6月11日（火）12日（水）18日（火）19日（水）

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部・自動車部

講習内容：1. ケガキ方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法

2. 高速切断機、コンターマシンの操作法、ヤスリの使用法

3. 卓上フライス盤の使用法

指 導 者：機械系技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

⑥社会貢献

1) おもしろ科学セミナー2019

毎年本校にて小中学生向けに開催される茨城高専おもしろ科学セミナーに、今年も講座を開講した。本年は新テーマ「作って楽しい！見て感動！立体万華鏡」のもと、立体万華鏡の製作を行った。

午前と午後、2回の講座を通して合計で約40人の子供が参加し、世界に1つだけのオリジナル立体万華鏡を製作した。

日 時：令和元年8月23日（金）午前の部9：30～12：00／午後の部13：00～16：00

内 容：作って楽しい！見て感動！立体万華鏡

開催場所：茨城高専MM室

2) 青少年のための科学の祭典での出展

本センターではひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催された、青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2019に参加した。

本大会では、ビー玉と鏡を用いて鮮やかな模様を写し出す、ビー玉万華鏡を出展した。結果は盛況で、技術センターブースには80人近くの子供が立ち寄り、皆思い思いに万華鏡製作を楽しんでいた。

日 時：令和元年11月2日（土）

内 容：作って楽しい！見て楽しい！ビー玉万華鏡を作ろう！

開催場所：ひたちなか市総合体育館

⑦会議開催の記録

令和元年度技術教育センター管理運営会議

令和元年5月31日（金）

1) H.30 技術教育支援センター活動報告について

2) R.01 技術職員週間スケジュールについて

3) 技術職員の科学研究費応募について

4) 地域貢献活動について

5) 技術職員研修会について

6) 関東信越地区国立高等専門学校技術長等会議について

⑧技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

* 複数資格取得者含む

令和2年3月31日 現在

| 分類 | 資格名 | 取得者数 |
|--------------------|---------------------------|------|
| 職業訓練指導員 | 職業訓練指導員（機械） | 4 |
| | 職業訓練指導員（電気） | 2 |
| | 職業訓練指導員（化学分析） | 1 |
| 技能士 | 特級機械加工技能士 | 1 |
| | 特級機械保全技能士 | 1 |
| | 1級機械加工技能士（普通旋盤作業） | 2 |
| | 1級化学分析技能士 | 1 |
| 作業環境測定士 | 第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん） | 1 |
| | 第1種作業環境測定士（特定化学物質） | 1 |
| | 第1種作業環境測定士（金属類） | 1 |
| | 第1種作業環境測定士（有機溶剤） | 1 |
| 衛生管理者 | 第1種衛生管理者 | 4 |
| 作業主任者 | エックス線作業主任者 | 1 |
| | 特定化学物質等作業主任者 | 2 |
| | 鉛作業主任者 | 1 |
| 特別教育 インストラクター | 局所排気装置等定期自主検査 インストラクター | 1 |
| 電気工事士 | 第2種電気工事士 | 2 |
| 電気通信設備工事担任者 | アナログ第3種工事担任者 | 1 |
| 教員免許 | 中学校教諭免許状（理科） | 1 |
| | 高等学校教諭免許状（理科） | 1 |
| 毒劇物取扱責任者 | 毒劇物取扱責任者 | 2 |
| 危険物取扱者 | 乙種第4類危険物取扱者 | 6 |
| 特別管理産業廃棄物 管理責任者 | 特別管理産業廃棄物管理責任者 | 1 |
| 技能講習 | ガス溶接技能講習 | 3 |
| | 玉掛け技能講習 | 1 |
| | フォークリフト運転技能講習 | 1 |
| 特別教育 | アーク溶接特別教育 | 2 |

| | | |
|-------------|-------------------------------|---|
| | 自由研削砥石特別教育 | 5 |
| | 機械研削砥石特別教育 | 2 |
| | プレス・シャー金型交換特別教育 | 2 |
| | 特定粉じん作業特別教育 | 5 |
| | クレーン運転業務特別教育（5トン未満） | 1 |
| 情報技術者 | 基本情報技術者 | 1 |
| | 第2種情報処理技術者 | 1 |
| CAD利用技術者試験 | 2次元CAD利用技術者試験2級 | 1 |
| ビジネス・キャリア検定 | 2級生産管理オペレーション (作業・工程・設備管理) | 1 |

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 技術教育支援センターで8月に行っている公開講座「おもしろ科学セミナー」について講座内容及び人数の見直しをする。
- ② 技術教育支援センターで11月に行っているひたちなか市「科学の祭典」、これについても講座内容及び人数の見直しをする。
- ③ 授業支援「実習・実験等」留学生に対するきめ細かい指導を徹底する。

(3) 今後の展開

①技術教育支援センターの長期ビジョンの策定

様々なニーズに即した技術教育支援を実現するための基盤を作る。その実現に向けて職員のスキル向上および最新の技術・教育の習得に努める。具体的には研修会や講習会、資格取得といった機会の積極的な活用を通して自身の技術と知識の向上を図ると共に、自身の見識を広げ種々の要望に対応可能なように努力する。更に実習工場の高機能化した設備・環境を活かし、支援能力の向上を図る。

②国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った指針

技術職員の資質向上に向けて学会発表や研修会、他機関との交流に対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指す。加えて社会・機構のグローバル化に適した技術支援体制の構築を図る。

③多岐に渡る支援業務への対応

各々の技術を活かし、センターとして多岐多様な支援を円滑に行うよう努める。

④地域貢献と広報活動の活発化

高専の認知度向上の一環として小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動に取り組む。同時に技術教育支援センターニュース（年2回程度）やセンターのウェブサイトにおいてリアルタイムに内外へ発信する。

16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

（1）取組実績

①財務状況

| 収入額 (単位：千円) | | 支出額 (単位：千円) | |
|--------------------|---------|----------------|---------|
| 区 分 | 決算額 | 区 分 | 決算額 |
| 運営費交付金 | 140,484 | 人件費(非常勤教職員) | 89,412 |
| 授業料・入学料及び 入学検定料 | 255,479 | 教育研究経費 | 272,570 |
| その他収入 | 10,970 | 教育研究支援経費 | 27,156 |
| 施設整備費 | 44,147 | 一般管理経費 | 32,098 |
| | | 施設整備費 | 44,147 |
| 合 計 | 451,080 | 合 計 | 465,383 |

※収入額と支出額の差額は外部資金間接経費の執行分。
科学研究費助成事業、受託・共同研究費、補助金を除く。

②予算

予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続き厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科（系・一般教養部）等への配分基準額は現状維持に努め当初配分を行った。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努め追加配分（23,860千円）を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し各系・一般教養部への機器等更新（13,212千円）を行い、教育研究活動及び施設維持管理に対応した整備（16,215千円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

②施設・整備

施設整備については、機構本部から施設維持管理として教育等施設基盤経費が予算配分され39,094千円を施設維持管理費等の施設関係に配分することで安心・安全な教育研究環境の基盤整備に努めた。

また、持続的な学修環境への改善としてEMS棟空調設備改修工事（執行額38,390千円）

を実施し、自然災害（台風15号・19号）で被災した建物等を修復した。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2018に基づき、老朽化の著しい施設の改修、学習環境整備及び緑地管理を実施した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

①予算

毎年当初配分の減額が続く中、教育の質を維持するため茨城高専では集約予算を有効活用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成16年度当初配分並みの学科（系・一般教養部）等教育研究経費を維持している。集約予算については、その殆どが追加配分の教育改革推進経費や授業料免除額による収入予算の減額（支出予算は減額なし）が占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、産学連携による機能強化を図ることで財源の確保が必要となる。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

②施設・整備

キャンパスマスタープラン2018の各プランに基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構インフラ長寿命化計画2018が策定され、本校の施設整備に係る基本方針（長・短期計画等の策定）の見直しを行う必要があり、今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境を確保していく。

（3）今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、少しでも財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革をしていく必要がある。

17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

（1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12月～1月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動及び訓練

1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

4) ヒヤリハット・事件事例等の取りまとめ及び周知

ヒヤリハット・事件事例について取りまとめを行い、グループウェア・サイボウズにより学内周知を実施した。

5) 保護具（防毒マスク）講習会

薬品使用者を対象に、1月に衛生管理者が講師となって保護具（防毒マスク）講習会を実施した。

③心と体の健康づくり

1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）

は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

ストレスチェックの結果を踏まえた産業医による講演会を実施し、約 30 人の教職員が聴講した。

3) 文部科学省共済組合保健経理厚生費事業の実施について

上記事業としてインフルエンザ予防接種又はマスク・ウェットティッシュの配付いずれかを選択する感染症対策事業を実施した。

インフルエンザ予防接種については、別途予算措置を行い、非常勤職員の内、希望者については文部科学省共済組合保健経理厚生費事業と同額の補助を実施した。

④安全衛生教育

1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2) 「実験実習安全必携」の配付

近年、高専機構本部から配付がなかったため、学生への配付ができない状況が続いていたが、電子版があることが判明したため、全学生に電子的に配付を行った。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、年に 2 回業者へ委託し廃棄処理をした。

4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9 月及び 3 月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

⑥その他

1) 組換え DNA 実験実施計画の承認

組換えDNA実験安全専門部会から、新規組換えDNA実験実施計画（全件機関届出実験）について報告を受けた。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。
- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣については、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、今年度は見送ったが継続実施が有効である。
- ③ 普通救命講習会の実施が滞っているため、定期的に実施できるようにしていく必要がある。

（3）今後の課題

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。
- ② スケジュール調整が困難であるが、普通救命講習会を年2回程度実施し、教職員の救急救命措置能力の向上を図る必要がある。
- ③ 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

（1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

①高等専門学校機関別認証評価

学校教育法 109 条で 7 年以内ごとに実施が義務付けられている機関別認証評価を受審した。

大学改革支援・学位授与機構が評価機関となっており、令和元年 6 月に自己評価書を提出し、令和元年 11 月 18 日（月）・19 日（火）に訪問調査を実施した上で、令和 2 年 3 月に評価結果の提示があり、「評価基準を満たしている。」との評価となった。

選択的評価事項 A「研究活動の状況」及び選択的評価事項 B「地域貢献活動等の状況」の評価結果については、「目的の達成状況が良好である。」との結果となった。

②授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各学科長等及び各個人にフィードバックし、全体の集計結果については、学生には掲示で公表した。

③学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

④自己点検・評価委員会の開催

第 1 回

開催日：令和元年 6 月 11 日（火）

- 議 題：1. 自己点検・評価委員会の業務の確認及び規則の一部改正について
2. 平成 30 年度実施のアンケート結果について
3. 平成 30 年度年次報告について
4. 平成 30 年度年度実績について
5. 2019 年度年度計画について

6. 機関別認証評価の受審スケジュールについて

第2回

開催日：令和元年7月9日（火）

- 議 題：1. 令和元年度前期分授業評価アンケート
2. 令和元年度教員表彰の推薦者について
3. 機関別認証評価受審について
4. 令和元年度参与会

第3回

開催日：令和元年12月23日（月）

- 議 題：1. 令和元年度後期授業評価アンケートの実施について
2. 令和元年度担任評価アンケートについて
3. 令和元年度参与会の開催について
4. 卒業時及び修了時学生へのアンケート実施について
5. その他

⑤教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せに」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

開催日：令和2年3月12日（木）

議 題：定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議

⑥在校生等へのアンケート

在校生、令和元年度に卒業・修了する学生及び進学先（大学・企業）を対象として、令和元年3月にアンケートを実施した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 高等専門学校機関別認証評価については、全ての項目で基準を満たしているとの結果を得ることできた。今後は、「改善を要する点」に上がった事項について、フォローアップを実施していく。
- ② 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助となった。今後は、回答率を上げる方策を検討していく。
- ③ 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度末に実施を予定していた参与会及びFD研修会を中止としたため、次年度は開催できるように進めていく。

(3) 今後の展開

現在、点検評価等を行うため保管している答案等については紙ベースで保管しているが、効率化及び経費削減の観点からデータでの保管に切り替えることを検討していく。